

種々情報蒐集ニ努メツツアル向モアルニ付此際陸軍拓務兩省ト
モ御協議奉玉中村事件ヲ證據ニ關スル限内地及殖民地全體ニ亘
リ新聞掲載禁止方御發令相成ル様致シテ何分大儀至急御回電ア
リタシ

右特務機關十挺合老濟

關東長官六朝鮮總督へ轉電セリ

八日森岡ヲシテ臧主席ヲ訪問再調査員ハ既ニ出發セリヤ否ヤヲ尋
ネサキタル處軍法官吳瑞綺ハ憲兵司令部所屬探偵員人數不詳
伴七六日晚奉天ヲ出發シタルカ張副司令ヲ意見ニ依ル別ニ有能
ル人物一名増派ノ件ハ如何ニ決定セシヤ參謀長歸任ノ要否
サレハ判明セズ尙榮ハ今晚若ハ明晩歸任ノ善ナリト語レヨ
支、北京、南京、鄭家屯、哈爾濱、齊齊哈爾ハ轉電セリ

外務省

第第
第第

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛
在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

昭和六年九月八日後發
昭和六年九月九日後發
昭和六年九月九日後發

電信第五七三號(暗)

往電第五六五號宛關報

本日森岡ヲシテ臧主席ヲ訪問再調査員ハ既ニ出發セリヤ否ヤヲ尋
近來時各處軍法官吳瑞綺ハ憲兵司令部所屬探偵偵(執數不詳)等

件上六日晚奉天ヲ出發感タルカ張副司令抄意見ニ從死別ニ有能得
少人物一名増添條件者如何ニ決定セシヤ案參謀長歸任支那トテ

サレハ判明本婦不尙案分今晚若ハ明晚歸任ヲ答付リ詔語モ出テ居リ
支、若北京、那南京、真都家屯、情給爾賓、所齊齋哈爾ハ轉電セリハ其ノ何

人カ日本側ニ情報ヲ供給シ居ルヤハ容易ニ之ヲ突止メ得ルコトニ
シテ其ノ結果ハ我方ノ爲ニ働キ與レ居ル者カ危險ヲ感シ我方

外務省

第サカル號念アルノミナラス彼等ノ身上ニモ及ホス虞アルト同時
 ニ若シ在奉天林總領事モ小幣原外務大臣宛於テ計畫中ノ證人ノ手
 懷ケハ勿論今後ノ情報及證據品蒐奉天對昭和六年九月九日後發明
 カナリ此ノ點ニ付テハ六日奉天ニテ會合同際六年九月九日後着
 電信第五七三號報暗取扱注意方ニ付貴總領事並土肥原大佐ノ同意
 齊待哈爾發本官宛電報小官當地歸還後其ノ感ヲ深クスルモノアル
 第十八號側御協議ノ上一層御注意方重ネテ相願ヒ申上ク尙又當
 近來南滿各邦字新聞行現ハ外中村事件ニ關スル情報ニ關シ當地
 ニテ蒐集シタルモヲ思ハルモノア初甚タシキニ至リテハ情報
 右蒐集ハ當地滿鐵公署雇員以妻御方又齊々哈爾ニテ支那人ニ嫁
 キタ九日本婦人下カカ之ニ當リ居ルカ如キ露骨ノ記事モ出テ居リ
 テ若シ支那側カ眞面目ニ情報ヲ出所ヲ検査スルコトナラハ其ノ何
 人カ日本側ニ情報ヲ供給シ居ルヤハ容易ニ之ヲ突止メ得ルコトニ
 シテ其ノ結果ハ我方ノ爲ニ働キ吳レ居ル者カ危險ヲ感シ我方ヨリ

外務省

遠サカル懸念アルノミナラス彼等ノ身上ニモ及^{先除}ホス虞アルト同時
 二若シ發覺シタル場合ニハ目下當(地)ニ於テ計畫中ノ證人ノ手
 懷ケハ勿論今後ノ情報及證據品蒐集絕對ニ不可能トナルコトハ明
 カナリ此ノ點ニ付テハ六日奉天ニテ會合ノ際各位ノ御注意ヲ促シ
 今後一層關係情報ノ取扱注意方ニ付貴總領事竝土肥原大佐ノ同意
 ヲ得タル次第ハアルモ小官當地歸還後其ノ感ヲ深クスルモノアル
 ニ付陸軍側ト御協議ノ上一層御注意方重ネテ相願ヒ申上ク尙又當
 地關係支那人情報供給者ノ名前ハ將來事件ノ幸ニ解決シタル後ニ
 ナリテモ絕對ニ之ヲ秘密ニ附セラルル様併セテ御願申上ク
 右土肥原大佐ヲ通シテ陸軍側ニ御傳ヘ請フ
 外務大臣ヘ轉電アリタシ
 哈爾賓・鄭家屯・長春ヘ暗送セリ

外
 務
 省

第 二 號

在奉天林總領事官幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月九日後發

同 六年九月九日後着

電信第五七四號(暗)

在電第五七〇號關以邪引編中六日七日報押シテ在訪ノ森岡ニ

其日貴地發聯合並電通只八日閣議ノ模様ニ關シ詳細ナル報道ヲ爲

シテ聯合ニ陸相ハ下手入ノ一人力中村大尉所持ヲ時計ヲ持參シ

居ル事書モ明カ下ルル旨報告セラレタリ下報道シ地方新聞在業

業ノノ記載モラレ多大ノ注意ヲ喚起シ居ル處我方ニ於テ亦出來得

ズルハ右ノ下手入ヲ手ニ入レシト下苦心シ居ル際ニモアリ證據固メ

張 龍 支障ヲ及果スルニ付新聞掲載禁止ノ件

關ノ上官 重ネテ電稟ス

ミナラス自分ニ

外務省

第ル位ニ號決シテ故意ニ誤魔化シ又ハ政策的ニ引延ハシ居ルカ如キ事情在奉天總領事ヨリ幣原外務大臣宛

尙張副司令ノ意見ニ依ル別ニ有力奉天調昭和六年九月九日後發テハ明日中ニ入選ヲ了ヘ現地ニ派遣ノ上吳同官六年九月九日後着テ電信第五七五號(暗)

榮參謀長八日夜歸任風邪引籠中右ルモ九日朝押シテ往訪ノ森岡ニ會見左ノ通り内話セリ何レ本官一兩日中又會見ノ筈ナルモ不取敢關團長說得連出シニ關シテハ同人ト友人關係ヲ有スル司令部附少將王致中ヲ五日朝出發セゾメ六日晚出發ノ吳軍法官一行(特務憲兵一名帶同)カ現地到着調査ノ際邪魔ヲサレサル様手配命令シ尙關團長カ現任地ヲ去ル時ハ其旨直ニ電報方指圖シ置キタリ張副司令モ本件ヲ頗ル重大視シ過般ハクシヨウシ(洮安)ニ在ル關ノ上官 エントウタイ ヲ態々北平ニ呼寄セ事情ヲ質ネラレタルノミナラス自分ニ對シテモ速ニ真相ヲ調査シ公正處理方ヲ命セラレ

タル位ニテ決シテ故意ニ誤魔化シ又ハ政策的ニ引延ハシ居ルカ如
 キ事情斷シテ之レ無シヨリ幣原外務大臣宛郵電省ハ同日
 尙張副司令ノ意見ニ依ル別ニ有力ナル調査員一名派遣方ニ關シテ
 ハ明日中ニ人選ヲ了ヘ現地ニ派遣ノ上吳法官下協力セシム積ナ
 電信第五七六號（暗）

陸軍部、公使、北平、南京、齊々、哈爾、哈爾濱、鄭家屯ヘ轉電セリ十七日

統戰日ヲ七月一日ニ決定シテ以テ本官ノ意見調合セリタ
 ヲニ以テ承許シ置キタル處交渉上ノ都合モナリ外部ハノ要
 差事ハラレル様態重省ノ調打行アリタリ
 ヲ以テ維持ヲ請フヤリ
 人々ノ動向ヲ察スルヤリ
 ヲ以テ人々ノ動向ヲ察スルヤリ

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛昭和六年九月十日發

電信第五七七號(略)奉天

電信第五七六號(略)報第一九號ノニ同 六年九月九日後着

陸軍側ニ於テ第五事並事務整理上中村大尉ノ向禁日ヲ六月二十七日

銃殺日ヲ七月一日ニ決定シ度キ趣(以テ本官ノ意見調合ヲ指シタ

ルニ付承諾之置キタルガ處交渉上ノ都合ヲ以テ外部ニ付發表ハ當分

差控ヘラレルル様陸軍省ヲ御打合アリタリ

ク種々事情ヲ訴ヘ佐藤ノ申入レヲ受諾シ能ハサル旨且其代リニ當

人ヨリモ事情ヲ好ク知り居リ且隨身ニシテ係累ナク證人トシテ最

モ適當ノ人物アルニ付之ヲ考慮スヘシト申出テタリ佐藤ハ當ニ其

何人ナルヤヲ尋ネタルニ對シハ「河北人ニシテ郭振永ト呼ブモノ

外務省

第ヲ働キ號リタルモノナリ目下民安鎮ノ自分ノ許ニ潛伏シ居リ同
人ハ度在奉天林總領事ヨ勅幣原外務大臣宛證人タルコトヲ引受ク
ヘキニ付同人ニセラレタシト答奉天リ昭和六年九月十日前後他
ニ關シ詳細ヲ尋ヌルト同時ニ霍カ果シ同約六年九月十日後着出
電信第五七七號^(略)タル上霍ノ言ヲ容レ郭振永連レ出シ方同人
齊友哈爾發本官宛電報第卅九號^(略)蒙シ一週間後即十五日頃ニハ
大臣宛貴電第五六四號ニ關シ豫定ナリ^(略)
佐藤ハ當館ノ意ヲ體シ七日夜霍(以下霍トアルハ霍富元ヲ指ス)
ト祕密ニ會合シ同人カ我方ノ爲ニ證人トナルコトニ付極力勸說シ
タルモ同人ハ將來ニ希望ヲ有シ日蔭者トナルヲ好マサルモノノ如
ク種々事情ヲ訴ヘ佐藤ノ申入レヲ受諾シ能ハサル旨且其代リニ當
人ヨリモ事情ヲ好ク知り居リ且獨身ニシテ係累ナク證人トシテ最
モ適當ノ人物アルニ付之ヲ周旋スヘシト申出テタリ佐藤ハ霍ニ其
何人ナルヤヲ尋ネタルニ霍ハ「河北人ニシテ郭振永ト呼ブモノ馬

賊ヲ働キ居リタルモノナリ目下民安鎮ノ自分ノ許ニ潛伏シ居リ同
 人ハ度胸モテ其自分ヨリ勸説スレハ喜シテ證人タルコトヲ引受ク
 ヘキニ付同人ニセラレタシト答ヘタリ佐藤ハ郭振永ノ人物其他
 ニ關シ詳細霍ニ尋ヌルト同時ニ霍カ果シテ約束通ル同人ヲ連レ出
 シ來ルヤ否ヤヲ確カメタル上霍ノ言ヲ容レ郭振永連レ出シ方同人
 亦依頼シタホ霍ハ昨日朝當地發歸蒙シ一週間後即十五日頃ニハ
 郭振永ヲ連レ再ハ當地ニ來ル豫定ナリト續ク中村一行ノ遺骨又ハ
 遺骸ノ所在捜査及證據品ノ蒐集ヲモ依頼シ霍ハ之ヲ快諾セリ
 佐藤ノ見ル處ニテハ霍ハ佐藤ヨリ證人タルコトヲ勸説セラレタル
 トキハ何トナク憂色アリシモ佐藤カ一然ラハ郭振永ヲ問違ナク世
 話シ吳レト申入ルルヤ同人ハ喜色ヲ現ハシ必ス周旋スヘシト述
 ヘ其ノ言ニ信賴シ得ル語氣態度ヲ示シタル由ニテ佐藤ハ霍カ郭振
 永ヲ連レ來ルコトハ間違ナカルヘシト申シ居レリ
 當地情報ノ新聞紙ニ洩ルルハ物軍調ヨリニアラスヤト疑ハルル

外務省

第ルヨリ號記證人拘込ノ見込付ク迄ハ佐藤ハ本件計劃ヲ何處ニモ
電報セ在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛場ヲ考慮シ本電内容當
分陸軍側ニモ御達シナキ様相願ヒ奉天昭和六年九月十日發
大臣へ轉電アリタシ
同 六年九月十日發着
電信第五七七號ノ二（暗）

齊齊哈爾發本官宛電報第一九號ノ二

佐藤ハ證人連レ出シノ外ニ霍ニ蒙古人ヲ雇ヒ中村一行ノ遺骨又ハ
遺骸ノ所在搜查及證據品ノ蒐集ヲモ依頼シ霍ハ之ヲ快諾セリ
佐藤ノ見ル處ニテハ霍ハ佐藤ヨリ證人タルコトヲ勸說セラレタル
トキハ何トナク憂色アリシモ佐藤カ「然ラハ郭振永ヲ問違ナク世
話シ吳レ」ト申入ルルヤ同人ハ喜色ヲ現ハシ必ス周旋スヘシト述
ヘ其ノ言ニ信賴シ得ル語氣態度ヲ示シタル由ニテ佐藤ハ霍カ郭振
永ヲ連レ來ルコトハ間違ナカルヘシト申シ居レリ
當地情報ノ新聞紙ニ洩ルルハ陸軍側ヨリニアラスヤト疑ハルル點

アルヨリ前記證人抱込ノ見込付ク迄ハ佐藤ハ本件計劃ヲ何處ニモ
電報セサルコトヲ希望シ居ルニ付佐藤ノ立場ヲ考慮シ本電内容當
分陸軍側ニモ御洩シナキ様相願ヒ外シ宛
大臣ヘ轉電アリタシ

奉天 昭和六年九月十日發

同 六年九月十日發着

電信第五七九號（暗）
貴電第一八二號ニ關シ（浪人策動取締ノ件）

時節柄嚴重注意中ナリカ目下ノ處御來示ノ如キ形跡ナシ

外務省

第 號

在奉天總領事ヨリ幣原外務大臣宛

昭和六年九月十日發着

電信第五七九號(暗)(暗)

貴電第三六五號ニ關シ(浪人策動取締ノ件)

時節柄嚴重注意申奉形跡ナリ御來示ヲ始キ形跡ナリ御來示ヲ始キ形跡ナリ

相談ノ模様竝ニ今後ノ方針等説明ヲ求メタル感榮ハ九日森岡ニ對

スルト同様ノ話ヲ繰返シタルヲ以テ本官ハ貴電第一八六號前段ノ

趣旨ニ依リ事件ノ重大性ヲ強ク印象セシムルニ努メタル後進シテ

同電後段ノ御意見ヲ參酌シ中國側ニ於テアツサリ事實ヲ承認スル

ニ於テハ中日親善ノ精神ヲ体シ謝罪感觸及將來ノ保障位

ニテ解決スル見込ナルモ之ニ反シ飽迄事ヲ否認スルカ如キコト

外務省

第等ノ誠號ヲ疑フ譯ニハ非サルモ第一回ノ調査員カ半月餘リノ時
 日ヲ費在奉天林總領事^原外務大臣宛本國政府ニ於テハ奉天
 當局ノ誠意ニ對シ鮮カラ^入疑ヲ挾奉^天照和六年九月一十日後發
 調査カ又々長引クニ於テハ中國側ハ政策同故六年九月十日前着
 電信第五八二號^ヲ亮暗^サルニ至ルヘク就テハ誠意ヲ示ス上ニ於
 往電第五七五號ニ關シ調査ヲ促進スルト共ニ關團長ノ如キハ上官
 本官才日臧主席及榮參謀長^會見シ北平ニ於ケル榮^卜副司令^トノ
 相談ノ模様竝ニ今後ノ方針等説明ヲ求メタル處榮ハ九日森岡ニ對
 スルト同様ノ話ヲ繰返シタルヲ以テ本官ハ貴電第一八六號前段ノ
 趣旨ニ依リ事件ノ重大性ヲ強ク印象^セシムルニ努メタル後進ンテ
 同電後段ノ御意見ヲ參酌シ中國側ニ於テアツサリ事實ヲ承認スル
 ニ於テハ中日親善ノ精神ヲ体シ謝罪處罰損害賠償及將來ノ保障位
 ニテ解決スル見込ナルモ之ニ反シ飽迄事實ヲ否認スルカ如キコト
 アリトセハ意外ナル結果ヲ誘發スヘク本官ハ敢テ臧主席及榮參謀

外務省

長等ノ誠意ヲ疑フ譯ニハ非サルモ第一回ノ調査員カ半月餘リノ時
 日ヲ費シ乍ラ何等得ル處ナカリシ結果現ニ本國政府ニ於テハ奉天
 當局ノ誠意ニ對シ鮮カラズ疑ヲ挾ミ居ル次第六年九月十一日奉天
 調査員又々長引クニ於テハ中國側ハ政策上故意ニ責任ヲ回避セル
 モノナリト批難ヲ免レサルニ至ルモニテハ誠意ヲ示ス上ニ於
 テ調査員ヲ督勵シ至急調査ヲ促進スルト共ニ團長ノ如キハ上官
 ノ威力ヲ以テ即時奉天ニ引致スルコト必要ト認ム旨申入レタリ
 (續ク) 二、今日中日ニハ第一回ノ調査員モ現地ニ到着スルコト思ハルル
 ニ付間モナク何等カノ手懸リヲ得ル見込ナレハ今暫ク御猶豫ヒ
 タク又團長連レ出シニ出發シタルニ致中ハ昨日逃安(白城子)ニ
 ヨリ關ハ既ニ任地ヲ離レタリトノ聞込アル旨電報シ來リタルニ付
 昨夜折返シ即時蘇那公ハニ赴キ事實ヲ確カメ今尙任地ニアル場合
 ハ連レ來ル稟電命シ置キタリ。存ヘヨルニ付折返シ本官ヨリ稟

外務省

第...件...號...處レ馬賊ノ群ニ投スル下心アリトノ噂アル處上官ノ命
ナク...在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛ハ職務ヲ放棄シ逃亡シタ
ルニアラスヤト反問セルニ榮(奉天)昭和六年九月十日午後發
認ムルコトトナルヲ以テ多分左様ノ同ト十六年九月十一日前着
電信第五八二一號ノ二定(暗)據トナルヘント語レリ
右ニ對シ榮ハ御話ノ次第ハ一留々御尤モニシテ副司令以下奉天當局
ハ決シテ故意ニ解決ヲ遷延シ居ル次第ニアラス副司令自身トシテ
モ現ニ白城子駐在袁統帶ヲ北平ニ呼寄せ事情ヲ尋ネツツアルトシテ
ニ今明日中ニモハ第二回ノ調査員モ現地ニ到着スルカコトト思ハルル
ニ付間モナク何等カノ手懸リヲ得ル見込ナレハ今暫ク御猶豫願ヒ
タク又關團長連レ出シニ出發シタル王致中ハ昨日逃安(白城子)
ヨリ關ハ既ニ任地ヲ離レタリトノ聞込アル旨電報シ來リタルニ付
昨夜折返シ即時蘇鄂公府ニ赴キ事實ヲ確カメ今尙任地ニアル場合
ハ連レ來ル様電命シ置キタリト答ヘタルニ付折返シ本官ヨリ關ハ

事件暴露ヲ處レ馬賊ノ群ニ投スル下心アリトノ噂アル處上官ノ命
 ナク勝手ニ任地ヲ去リタルコト事實トモハ職務ヲ放棄シ逃亡シタ
 ルニアラスヤト反問セルニ榮ハ此ノ際逃亡セハ自ラ殺害ノ事實ヲ
 認ムルコトトナルヲ以テ多分左様ノコトナカルヘク若シ逃ケタリ
 トセハ却テ事實認定ノ證據トナルヘシト語レリ
 尙本官ヨリ證人ノ氏名等ヲ留保シ拘禁及殺害ニ關スル大體ノ事情
 ヲ告ケ且某外國領事モ七月中ニ蘇鄂公府方面ヲ旅行セル白露人ヨ
 リ日本人被害ノ評判ヲ聞込ミ居ル事實モアリト述ヘテ支那側ニ於
 テハ之ニテモ本件カ事實ナルコトノ狀況判斷付カサルヤト突込ミ
 タルニ第一回ノ調査員ハ無能ニシテ何等ノ判斷ヲ付ケ得サリシモ
 各方面ノ狀況ヲ綜合スレハ自分モ大體事實ハ間違ナキヤニモ判斷
 セラルト答ヘタリ

支、北平、南京、鄭家屯、哈爾賓、齊々哈爾へ轉電セリ

外務省

第シテハ號實方ニ信頼シテ急速ナル調査報告ヲ待ツノミニテ何トモ意見在奉天林總領事暨幣原外務大臣宛考量ノ上決定スヘシト語レリ

支、北平、南京、哈爾濱、齊齊哈爾、鄭家屯
奉天 昭和六年九月十一日後發
電信第五八三號（暗）
往電第五八二號ニ關シ

榮參謀長トノ會談中本官ヨリ副司令ノ意見ニ依ル吳軍法官ノ外ニ高級官吏ノ派遣ハ如何ニ決定セシヤト尋ネタルニ榮ハ自分トシテハ憲兵司令陳興亞ヲ派遣センカト考量中ナルカ昨今日本各新聞ニ於テ種種惡宣傳ヲ爲シ中國側ニ誠意ナシ云々等盛ンニ書キ立テ居ル場合ニ又陳ヲ派遣スルハ日本新聞ハ中國側ハ事件ヲ故意ニ引キ延ス爲吏ニ第三回ノ調査員ヲ派遣ス等騒キ立ツル恐レアリ就テハ陳派遣方ニ關シ可否ノ御意見承リ度シト申出タルヲ以テ本官ハ右ハ中國側ノ責任トシテ如何様ニモ決定相成ヘキ筋合ニシテ日本側

申シテハ唯貴方ニ信頼シテ急速ナル調査報告ヲ待ツノミニテ何トモ意見ヲ表示シ難キ旨應答中殊處榮大使宛考量ノ上決定スヘシト語レリ

奉天

昭和六年九月十一日午後發

支、北平、南京、哈爾濱、齊齊哈爾、鄭家屯へ轉電七月二日前着

往電第五八三號ニ關シ

陳興亞派遣ニ決シテ十一月一日夜出發ノ豫定ナル旨並ニ在電第五六七

號屯墾軍第三團ノ聲明書ハ該調查ノ結果第三團本部ヨリ發送セ

タタハ事判明至先旨交渉署經由榮參謀長トヨリ内報アリタリ

支哈爾濱ヨリ齊齊哈爾へ轉電アリタリ

支、北平、南京、哈爾濱、鄭家屯、齊齊哈爾へ轉電セリ

キ、却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ肉取セシムル

ハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ肉取セシムル

處アリ目現在ニ於ケル該地方ニ行ク者ハ該處ニ於テ

該處ニ於テ該處ニ於テ該處ニ於テ該處ニ於テ該處ニ於テ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月十一日後發

電通信第五八八九號(暗) 貴往電第五七八三號ニ關シ

將愈陳興亞派遣付ニ決ヘシ御上示日夜出發人ノ豫定ナレル逃匿並地在電第五八四七

領號屯墾軍第三三團ノ點聲明書キハ併調査テノ結果第三三團本部ヨリ發送セラレ

リタ文書事判明セル旨交渉署經由榮參謀長ヨリ要内報テリタ勿論ナルモ

支哈爾濱ニヨリテ齊齊哈爾ハ轉電的アリ鎧タシ解クコトニ同意スルニ於テハ

必支、北平、南京、哈爾濱、鄭家屯、齊齊哈爾ニ轉電モリタルカ

キハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ拘束セシムルカ

ハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ拘束スルノ結果ニ終

虞アリ且現在ニ於テモ奧地地方旅行ノ際ニハ場合ニ依リ護衛ノ爲

外務省

兼警等ヲ號セシメ居ル次第モ有之護衛ノ要ハ主義上ノ問題トセズ
實際的在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛付之ヲ持出ササルコト
ト致シ度シ尙可能性ノ如何ハ奉天昭昭和六年九月十二日後發
ノ機會アラハ洮南領事館ノ開設ヲモ同議六年九月十二日後着
電信第五八九號於暗石様取計ヲ所存ニ付御含ミ置キ相成度シ
貴電第七七八號ニ關シセリ
將來ノ保障ニ付テハ御來示ノ通邦人ニ對スル洮索地方ノ事實的閉
鎖ヲ解クコトニ重點ヲ置キ併セテ諸方面ニ於ケル邦人ノ旅行ニ當
リ支那側カ完全ナル保護ヲ與フヘキコトヲ要求スルハ勿論ナルモ
支那側ニ於テ同地方ノ事實的閉鎖ヲ解クコトニ同意スルニ於テハ
必要ノ場合ニ護衛兵ヲ附スヘキコトヲ此際特ニ約束セシムルカ如
キハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ拘束セシムルカ如
クハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ拘束セシムルカ如キ
虞アリ且現在ニ於テモ輿地地方旅行ノ際ニハ場合ニ依リ護衛ノ爲

巡警等ヲ附セシメ居ル次第モ有之護衛ノ要ハ主義上ノ問題トセス
 實際的取計ニ委ヌル方得策ト認メラルニ付之ヲ持出ササルコト
 ト致シ度シ尙可能性ノ如何ハ別問題トスルモ本件交渉ニ際シ適當
 ノ機會アラハ洮南領事館ノ開設ヲモ提議スルコト然ルコト存セ
 ラレ本官限リニ於テ右様取計ヲ所存ニ付御含ミ置キ相成度シ
 支、北平、南京ニ轉電セリ

關長代理ヲ既ニ洮安迄進出シ各領事館長ニ洮安キル電報
 通報アリ又陳興亞急電譯リ爲出發邊境多ク曠野ト云日
 得ル見込有リ尙衰統帶食未ク歸來ス其旨各領事館長ニ
 洮南領事館長ニ洮安迄進出シ各領事館長ニ洮安キル電報
 支、北平、南京、哈爾濱、瀋陽、長春、大連、青島、煙台、濟南、徐州、鄭州、開封、洛陽、西安、蘭州、西寧、昆明、貴陽、成都、重慶、萬縣、宜昌、沙市、漢口、九江、南昌、福州、廈門、汕頭、廣州、香港、澳門、台北、基隆、台中、台南、高雄、新竹、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖、台北、基隆、台中、台南、高雄、新竹、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖

外務省

IMT 424

第 一 八 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

支、北平、南京、哈爾濱、齊齊哈爾同 同六年九月二十日後發着

電信第五九〇一號 (暗)

往電第五七五號 關、白、劉哲カ森岡ニ内話セル處左ノ通

關團長代理(兵)既ニ洮安迄連レ出シ朝出會合都ニ云府朝洮安ヨリ電話

通報ヲ查員又陳興亞(無)感冒ヲ爲出發遲クタル嘆嗚去三日亦道出發シ

得ル事見込重大尙袁統帶(負)未看歸來ス人物旨各違違ヨリ交遊署各通

意内報子リカ、榮兩人ヨリ政務委員會ニ相談アリタル結果自分

支、陳北平、南京、ハ、哈爾濱、齊齊哈爾、分郵家屯、突轉電得ル見込ナリ

尙日本新聞ハ中國側カ故意ニ遷延シ居ルカ如クニ願キ立ツルモ右

ハ不當ノ宣傳ト言フヘク中國側ハ誠心誠意調査ヲ急キツツアルヲ

以テ御諒解アリタク林總領事ノ談ニ依ルモ日本カ事實ヲ認定スル

外務省

第二ハ調號ニ一ヶ月ヲ要シタル趣ニモアリ總領事ヨリ交渉ヲ受ク
ル迄何等在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛ニ相當ノ時日ヲ要ス
ルハ已ムヲ得サリシ處ナリ云々奉天 昭和六年九月十四日後發
支、北平、南京、哈爾濱、齊齊哈爾、同家六年九月十四日後發
電信第五九二號（暗）

中村事件ニ關シ十四日劉哲カ森岡ニ内話セル處左ノ通
陳興亞ハ憲兵二十名ヲ率ヒ十三日朝出發蘇鄂公府ニ向ヘリ第一回

ノ調査員カ極メテ無能ナリシ爲過日改メテ吳軍法官ヲ派遣シタル
モ事態ノ重大性ニ鑑ミ更ニ有力ナル人物ヲ派遣セヨトノ副司令ノ
意向モアリ、臧、榮兩人ヨリ政務委員會ニ相談アリタル結果自分
カ陳ヲ推薦シタル次第ニテ今回ハ充分真相ヲ突止メ得ル見込ナリ
尙日本新聞ハ中國側カ故意ニ遷延シ居ルカ如クニ騒キ立ツルモ右
ハ不當ノ宣傳ト言フヘク中國側ハ誠心誠意調査ヲ急キツツアルヲ
以テ御諒解アリタク林總領事ノ談ニ依ルモ日本カ事實ヲ認定スル

迄ニハ調査ニ一ヶ月ヲ要シタル趣ニモアリ總領事ヨリ交渉ヲ受ク
ル迄何等知ル處ナカリシ中國側トシテ六モ調査ニ相當ノ時日ヲ要ス
ルハ已ムヲ得サリシ處ナリ云々 奉天 昭和六年九月十四日後發
支、北平、南京、哈爾濱、齊齊哈爾、鄭家屯ニ轉電廿四日後着
電信第五九四號(暗)

齊齊哈爾發本官宛電報
第二〇號

往電第一九號ニ關シ

苦力頭霍ハ郭振永ヲ連レ昨十三日朝當地ニ着シタリ佐藤ハ振永ニ
會ヒタル後同人ハ我方ノ證人トシテハ霍以上ノ資格アリト小官ニ
報告セリ佐藤ハ直ニ振永ノ身装ヲ整ヘ同人ノ「ボーイ」ニ裝ヒ十
三日晚當地發振永ヲ旅順ニ連レ行ナタリ同人ハ十五日朝旅順着ノ
豫定ナリ陸軍側ト御打合ノ上佐藤無事旅順着ノ上ハ其旨當歸ヘ電
報アリタシ佐藤ノ振永連行ニ對シ小官ハ佐藤ニ向ヒ希望トアラハ

外務省

第館員號中ノ何人ニテモ同行サセ差支ナキ旨申聞ケタル處同
人ハ振在奉天林總領事ヨリ還幣原外務大臣宛又領事館員ヲ同行スル
時ハ支那側ノ注意ヲ惹ク惧モア奉天付昭和六年九月十四日後發
カルヘシト申シタルニ付館員ヲ附添ハ同ム六年九月十四日後着
電信第五九四號(暗)

齊齊哈爾發本官宛電報

第二〇號

往電第一九號ニ關シ

苦力頭霍ハ郭振永ヲ連レ昨十三日朝當地ニ着シタリ佐藤ハ振永ニ
會ヒタル後同人ハ我方ノ證人トシテハ霍以上ノ資格アリト小官ニ
報告セリ佐藤ハ直ニ振永ノ身装ヲ整ヘ同人ノ「ボーイ」ニ装ヒ十
三日晚當地發振永ヲ旅順ニ連レ行キタリ同人ハ十五日朝旅順着ノ
豫定ナリ陸軍側ト御打合ノ上佐藤無事旅順着ノ上ハ其旨當館ヘ電
報アリタシ佐藤ノ振永連行ニ對シ小官ハ佐藤ニ向ヒ希望トアラハ

當館館員署員中ノ何人ニテモ同行サセ差支ナキ旨申聞ケタル處同人ハ振水ノ様子ヲ見ルニ途中逃亡ノ惧ナク又領事館員ヲ同行スル時ハ支那側ノ注意ヲ惹ク惧モアルニ付同人一人ニテ連行ク方宜シカルヘシト申シタルニ付館員ヲ附添ハシ同ムル六コトハ中止シタリ右御舎迄五九五號(暗)

大臣へ轉電アリタシ

榮參謀長ハ十四日森岡ニ左ノ通り内話セリ
關團長說得連出シニ關シ蘇鄂公府ニ赴キ十三日歸來セル王致中ノ報告ニ依レハ殺害ノ事實ハ間違ナシト認メラレ殺害ニ關スル經過ハ退テ吳軍法官ノ調査報告及關團長訊問ノ結果ニ依ラサレハ正確ナルコト判明セサルモ王ノ聞込ミタル處ニ依レハ第三團ハ中村一行ヲ捕ハ數日間優遇シ居リタルニ一團部ヨリ食事ノ爲外ニ連出シタル事實アルモ腕ヲ縛リタル事實ナシト云フ一一行何故カ逃走シタルヲ以テ軍隊カ之ヲ沿ヒカケ殺害シ死骸ハ燒棄シタルモノノ如シト云フ

外務省

第分及賊號席共本件ニ關シテハ終始誠心誠意ヲ以テ交渉ニ應ジ來レ
 ルニ拘在奉天林總領事官即幣原外務大臣宛内命ヲ受ケタル爲實際ト
 何等ノ結果ヲ得ザリシ關係上日本奉天開昭和六年九月十四日後發
 電セルカ如クニ宣傳セルハ甚々遺憾ニシテ自分等ノ公正ナル態度
 充分御了解願ヒ度シ
 中村事件ニ關シ
 榮參謀長ハ十四日森岡ニ左ノ通り内話セリ
 關團長說得連出シニ關シ蘇鄂公府ニ赴キ十三日歸來セル王致中ノ報
 告ニ依レハ殺害ノ事實ハ間違ナシト認メラレ殺害ニ關スル經過ハ追
 テ吳軍法官ノ調査報告及關團長訊問ノ結果ニ依ラサレハ正確ナルコ
 ト判明セサルモ王ノ聞込ミタル處ニ依レハ第三團ハ中村一行ヲ捕ヘ
 數日間優遇シ居リタルニ（團部ヨリ食事ノ爲外ニ連出シタル事實ア
 ルモ腕ヲ縛リタル事實ナシト云フ）一行何故カ逃走シタルヲ以テ軍
 隊カ之ヲ追ヒカケ殺害シ死骸ハ燒棄シタルモノノ如シト云フ

外務省

自分及臧主席共本件ニ關シテハ終始誠心誠意ヲ以テ交渉ニ應シ來レ
 ルニ拘ラス第一回ノ調査員方絕對秘密調査内命ヲ受ケタル爲實際
 何等ノ結果ヲ得サリシ關係上日本各新聞ハ自分等カ故意ニ事實ヲ隱
 蔽セルカ如クニ宣傳セルハ甚タ遺憾ニシテ自分等ノ公正ナル態度ハ
 充分御了解願ヒ度シ
 尙關團長ハ監視員附添ニテ三日以内ニ奉天ニ到着スル筈ニテ同人ハ
 今尙事實ヲ否認シ居リ王致中ハ一足先ニ歸リタル次第ナリ
 公使、北平、南京、哈爾濱、鄭家屯、齊々哈爾濱へ轉電セリ
 殺害事實ハ大体間違ナシコトヲ中國側ニ於テモ調査シ得タル如ク
 尤モ委細ハ吳法官ノ歸ル迄ハ不明ナリ
 支、南京、北平、齊々哈爾濱、鄭家屯へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十四日後發
同 六年九月十四日後着

電信第五九六號 (暗、至急)

往電第五九五號ニ關シ

王致中ハ正式ノ調査員ニ非サルヲ以テ吳調查員ノ報告アル迄ハ(榮

參謀長ヨリ至急調査ヲ遂ケ歸任スル様電命濟(左記ノ通外部ニ對シ

應酬スルコトニ打合せ濟

殺害事實ハ大体間違ナキコトヲ認明シ支那側ニ於テモ調査中得タル如ク

尤モ委細ハ吳法官ノ歸ル迄ハ不明ナリ

支、南京、北平、齊、哈爾濱、哈爾賓、鄭家屯へ轉電セリ

二、淺ルニ於テハ優ラニ支...

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月十四日後發

同 六年九月十四日後着

電信第五九七號（暗）

中村事件ニ關シ支那側ニテハ日本ハ本件ヲ切掛ケニ滿蒙ニ於テ何等野望ヲ遂ケントスルモノナルヤニ危惧スル向モアルヤニ思考セラレタルヲ以テ本官トシテハ直接間接ニ事件ハ事件トシテ公正ニ處理スルノ外他意無キヲ説明シ支那ヲシテ中村殺害ノ事實ヲ承認セシムルニ努メ居ル次第ナルカ最近本邦新聞通信中政府ハ本件ヲ切掛ケニ滿蒙縣案ノ根本的解決ニ進マントスルモノナリ等ノ報道傳ヘラルル處洮南領事館問題ノ如キハ從來ノ行懸モアリ此際外部ニ洩ルルニ於テハ徒ラニ支那側當事者ノ立場ヲ困難ナラシメ交渉上我方ニ不利ト思考セララルルニ付極秘ニ御取計ヲ請フ

支、北平、

南京へ轉電セリ

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十五日後發

同 六年九月十五日後發

電信第五九八號（暗）

齊々哈爾發本官宛電報

第二二號

往電第二〇號ニ關シ

霍ニハ貴電第八號ノ御希望モアルニ付出來得ヘクハ證人トシテ
 ニ第三團ノ兵士一名ヲ連レ來ル事遺骨ノ所在ヲ見附クル事證據品
 ヲ買集ムル事ノ三點ヲ依頼シタリ尤霍ノ今回齎シタル情報ニ依レ
 ハ現地ニテハ遺骨ハ最近三團ニテ發掘シ之ヲ打碎キ他所ニ移シ又
 ハ徹キ散ラシタリトノ噂アル由ナリ霍ハ十四日晚若ハ十五日朝當
 地ヨリ現地ニ引返ス豫定

外務省

第 臣へ轉號アリタシ

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十五日發

同

六年九月十五日發着

電信第五九八號(暗)

齊々哈爾發本官宛電報

第二二號

往電第二〇號ニ關シ

霍ニハ貴電第八號ノ御希望モアルニ付出來得ヘクハ證人トシテ更ニ第三團ノ兵士一名ヲ連レ來ル事遺骨ノ所在ヲ見附クル事證據品ヲ買集ムル事ノ三點ヲ依頼シタリ尤霍ノ今回齎シタル情報ニ依レハ現地ニテハ遺骨ハ最近三團ニテ發掘シ之ヲ打碎キ他所ニ移シ又ハ徹キ散ラシタリトノ噂アル由ナリ霍ハ十四日晚若ハ十五日朝當地ヨリ現地ニ引返ス豫定

外務省

大臣へ轉電アリタシ

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十五日發

同 六年九月十六日前着

電信第五九九號(暗)

本官發齊齊哈爾宛電報第一四號

貴電第二〇號ニ關シ

佐藤郭同伴十五日着奉陸軍側ト打合セノ結果郭ハ當地特務機關事

務所内ニ留メ置クコトトセリタル場合同人ノ民衆對ニ特務機關事

外務大臣へ轉電セリ出發月日ニ關シ如何ニ詳述スルコトハ

ルヤ付録木ヲシテ附書元ニ添付スルハ如何ニ詳述スルコトハ

連日口頭ニ傳ヘテハ如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ

如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ

如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ

如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ

如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ如何ニ詳述スルコトハ

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月十五日發

電信第五九九號 (暗)

本官發齊齊哈爾宛電報第一四號

貴電第二〇號ニ關シ

佐藤郭同伴十五日着奉陸軍側ト打合セノ結果郭ハ當地特務機關事
務所内ニ留メ置クテ呼出トセリタル場合同人ノ民安黨ニ於ケル(一)居
任期間(二)留所(三)職業(四)出發月日ニ關シ如何ニ答辯スルコトナリ
外務大臣ヘ轉電セリ
居ルヤニ付鈴木ヲシテ費富元ニ尋ホシタル處富元ハ(一)同ハ事實
不述ヘ口(二)住テハ事實ヲ述フルトキハ同人ニ禍ヲ及ホス處アル
事付振水ハ野榮行商ヲ營ミ安宿ヲ經本轉々宿泊シ來リ中村等ノ捕
獲セラレタル當日ハ三號令ノ前ニ在リテ捕縛ノ事實ヲ詳察セリト

外務省

IMT 424

124
123

第辯スル號トニ振永ニ言合メアリト答ヘタリ鈴木ハ小宮ノ意ヲ体
 シテ罷在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛題ニ關係ナキ質問ヲ發
 スル時ハ立合ノ日本側ニ於テ之奉天止昭和六年九月十六日發
 阻止シ得サル處振永カ其居所ヲ僞ル時同支六年九月十六日發
 電信第六〇〇號ノ一四暗ニ附スルコト明カニシテ其場合振永ハ證
 齊齊哈爾發本官宛電報トナルニ付一振永ハ富元ノ下ニテ土掘リヲ
 第二三號ト一モノニシテ本月十日頃逃亡セルモノナルコトニ同
 往電第二〇號ノ中ニ關シルニ罷ハ支那ノコトハ道理ニ依テ處理サ
 郭振永ハ證人トシテ呼出サレタル場合同人ノ民安鎮ニ於ケル(一)居
 住期間(二)居所(三)職業(四)出發年月(五)關シ如何ニ答辯スルコトトナリ
 居ルヤニ付鈴木未シテ番富元ニ尋ねタル處富元ハ(一)ハ事實
 ヲ述ベ(二)ハ三付テハ事實ヲ述ベタルトキハ同人ニ禍ヲ及ホス處アル
 ニ付振永ハ野菜行商ヲ營ミ安宿ヲ尋ね轉々宿泊シ來リ中村等ノ捕
 縛セラレタル當日ハ三號舎ノ前ニ在リテ捕縛ノ事實ヲ目撃セリト

外務省

答辯スルコトニ振永ニ言含メアリト答ヘタリ鈴木ハ小官ノ意ヲ体
 シテ霍ニ向テ證人訊問ノ際支那側ニ於テ問題ニ關係ナキ質問ヲ發
 スル時ハ立合ノ日本側ニ於テ之ヲ阻止スルキモ前記ノ諸點ハ之ヲ
 阻止シ得サル處振永カ其居所ヲ僞ル時ハ支那側ニ於テ日本側ハ證
 人ヲ僞造シ來レリト唱ヘ一蹴スルコト明カニシテ其場合振永ハ證
 人トシテ價値ヲキモトナルニ付「振永ハ富元ノ下ニテ土掘リヲ
 ナシ居リタルモノニシテ本月十日頃逃亡セルモノナルコト」ニ同
 意セラレタリ申入レタルニ霍ハ支那ノコトハ道理ニ依リ處理サ
 レサルカ故ニ振永カ霍ノ所ニテ働キ居リタリト答辯スルコトトナ
 ラハ富元如何ニ辯明スルモ三團ニ訪ハ承知セス殊ニ富元ハ三團ニ
 對シ建築請願代未收三千元アルニ付同團ニテハ之ヲ機會ニ借金ヲ
 踏倒サンバ脱入旁々同人ヲ極刑ニ處スルコト明カナレハ同人ノ
 名前丈ハ引出サレサルコトニセラレタリト懇願セ初依テ鈴木ハ小
 官委任ノ範圍内ニテ(續ク)

外
 務
 省

第...機關號シテ民安鎮ニアル...殖局ノ料理人「本」某ナラハ資格
 モ有リ在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛好都合ナルノミナラス
 確カニ抱キ込ミ得ル自信アリト奉天...昭和六年九月十六日前發說
 クモ成功ノ見込ナシト諦メ同人ニ向ヒ同ル...六年九月十六日後着レ
 電信第六〇〇號ノ二(暗)十五日日ノ暮レルヲ待チ前記鈴木下ノ話
 齊齊哈爾本官宛電報書記生ヲシテ會見セシムルコトニ取極メタ
 第二三號ノ二...
 (ハ)霍カ若シ振永方同人...家...居リタ...事ヲ言明スル事ニ同意スレ
 ハ...哈大洋五千元ヲ與フルコト...
 (向)富元自身カ證人ニ立ツコトヲ承諾セハ七千元ヲ給與ス
 (ハ)證人ノ資格アルモノニシテ居所ヲ明シ得ル者ヲ短時日ノ中ニ連
 レ來リ得ル見込アリヤ
 ノ三案ヲ霍ニ提議シタル處同人ハ(ハ)ニ付テハ影響ノ及フ處廣汎
 ナルノ故ヲ以テ是非寬恕セラレタシト懇願シ(ハ)ニ付テハ屯墾局ノ

外務省

附屬機關ニシテ民安鎮ニアル墾殖局ノ料理人「本」某ナラハ資格
 モ有リ振永ヲ野菜行商ヲ立證セシムルニモ好都合ナルノミナラス
 確カニ抱キ込ミ得ル自信アリト申シタルニ付鈴木ハ此上霍ヲ口説
 クモ成功ノ見込ナシト諦メ同人ニ向ヒ成ル可ク速ニ「本」ヲ連レ
 來ルコトヲ依頼シタリ今十五日日ノ暮レルヲ待チ前記鈴木トノ話
 ヲ確カメシムル爲早崎書記生ヲシテ會見セシムルコトニ取極メタ
 團長十六日到着當地憲兵司令部ニ身柄ヲ預リタル旨稟參謀長ヨ
 霍ハ明十六日朝當地發途中鎮東ニ一泊入（蒙）ノ上約一週間後ニ
 ハ來齊ノ豫定東京、哈爾濱、齊、哈爾濱、鄭家屯へ轉電アリタシ

外
 務
 省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十六日後發

同 六年九月十六日後着

電信第六〇二號（暗）

往電第五九五號末段ニ關シ

關團長廿六日到着當地憲兵司令部ニ身柄ヲ預リタル旨榮參謀長ヨ
リ通知アリ又河ニ當リテハ從來ハ經緯ニ鑑ミ洮索地方ハ事實的解

放北平ハ南京ニ哈爾濱ハ齊齊哈爾ハ鄭家屯ニ轉雷セリヌ我方ト
シテ豫メ之カ善後措置ニ關シ貴見參考ノ上親シク考究ヲ遂ク置ク

必要アリ至急御來奉相願タシ

外務大臣へ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

電信第六〇三四號(暗)

本官發鄭家屯宛電報第二四號

昭和六年九月十七日前發
六年九月十七日發
六年九月十七日發

中村事件ノ交渉ニ當リテハ從來其經緯ニ鑑シ洮索地方ノ事實的解
 放等將來ノ問題ニ付多大ノ難關ヲ仕ヘ秋事推察ニ難ナラズ我方ト
 シテ豫メ之カ善後措置ニ關シ貴見參考ル上親自分考究ヲ遂ク置ク
 必要アリ至急御來奉相願タラシサル様取計ハレタク又自分ニ同居セ
 外務大臣ヘ轉電セリモ土掘リヲ業トシ居タリト言ハハ土掘リヲ業ト
 居ルハ目下自分ノ所ノイナレハ之モ亦言ハシメラレサルコトニ願
 ヒタシ安スルニ振水ノ層所職業ハ是非鈴木ニ話シタル通野菜ヲ

外務省

第 轉々安號ニ泊リ廻リ居リ多ルコトニセラレタシ其代リニ中村事
 件ヲ自在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛等ヲ打明ケ差支ヘナキ
 李ヲ連レ出シ來ルヘシト申出テ奉天ナ昭和六年九月十七日發
 方トシテハ迷惑至極ノコトナルモ他圖同同ス六年九月十七日發
 電信第六〇四號サレハ暗場合ニハ其居所職業等ニ付テハ霍ニ累ヲ及ホ
 齊々哈爾濱本官宛電報第二四號ル様相願ヒタシ此點小官ノ見ル點
 往電第二三號ニ關シ野菜行商云々ト其際霍ハ早崎ニ對シ自今日
 早崎ハ十日夜霍ヲ合以テ外リ其際霍ハ早崎ニ對シ自今日
 時モ既ニ何時ニ觀レ居ルニ付此上振詠カ粉ノ所ニ居ルヲ分
 言明セハ何時ニ觀レ居ルニ付此上振詠カ粉ノ所ニ居ルヲ分
 スコト變ハ絶對ニ信明セキハサレハ取計ハ直ニ分テ居ル
 尙ホハ明サスモトモ掘リ業トシ居ルハ直ニ分テ居ル
 居ルハ目下自分ノ業ハ之ヲ信ハ直ニ分テ居ルハ直ニ分テ居ル
 ヒタルハ目下自分ノ業ハ之ヲ信ハ直ニ分テ居ルハ直ニ分テ居ル
 スト要スルニ振詠ノ業ハ之ヲ信ハ直ニ分テ居ルハ直ニ分テ居ル

外務省

ヒ轉々安宿ニ泊取廻リ居果タルコトニセラレタシ其代リニ中村事
 件ヲ自分同様ニ目撃シ居リ且ツ其居所職業等ヲ打明ケ差支ヘナキ
 李ヲ連シ出シ來ルハ申出テタル由ナリ霍メ右申出テ前段に當
 方事シテハ迷惑至極ノコトナルモ他面同情スヘキ點アルニ付振永
 又證人ニ引出ササル場合ニハ其居所職業等ニ付テハ霍ニ累ヲ及ホ
 ス虞アル言動ヲ爲サシメテサレ様相願ヒタシ此點小官ノ見ル點
 ニテハ振永ヲシテ野菜行商云々ト全然虚偽ノ居所職業ヲ語ラシム
 ルヨリモ其氏名ヲ郭振永以外ノモノニ變ヘシメタル上「自分ハ何
 時ヨリ何時迄民安鎮ニ居住セシモ其ノ居所職業ハ他ニ迷惑ヲ及ホ
 スニ付打明ケ難シ」ト卒直ニ陳述セシムル方宜シカラスヤト思考
 ス(變名セサルトキハ狹キ民安鎮ノコト故直ニ發覺ノ虞アルニ付
 尙霍ハ早崎ノ間ニ對シ李ノ連出シニハ同人ノ匿ヒ居タル振永ト違
 ヒ手懷ケニ多少ノ時日ヲ要スルニ付早クテ一週間遅クテ十日ヲ要
 スト語レル趣ナリ尙又豫テ抱込計畫ノ中ニアリシ三合? 舍ノ番頭
 ラ

イギトクハ其後取調ノ結果張第三團長ノ妻ノ弟ナルコト判明見込
ナシ以上軍側ヘモ御傳ヘテ請フ外務大臣宛

貴電合第四一四號及第四一五號ニ依レ昭和六年九月十七日後發

ノ事實ヲ認メ來ルモノノ如キ處當館ニ於テハ御承知ノ通今尙證

人ノ抱込遺骨ノ所在突止メ、證據品ノ蒐集ニ力メ居ル次第ニ付

若シ其必要ナキニ至ラハ其旨至急電報相願ヒタシ

長ヲ主席トスル軍法會議組織セラルル旨榮參謀長ヨリ通知

アリタ邊尙吳法官ハ多分明日中位ニ歸任ノ豫定ナリ

公使、北平、南京、齊、哈爾濱、哈爾濱、鄭家屯ヘ轉電セリ

十五日發信ニ付ハ

貴電合第四一四號及第四一五號ニ依レ

ノ事實ヲ認メ來ルモノノ如キ處當館ニ於テハ御承知ノ通今尙證

人ノ抱込遺骨ノ所在突止メ、證據品ノ蒐集ニ力メ居ル次第ニ付

若シ其必要ナキニ至ラハ其旨至急電報相願ヒタシ

長ヲ主席トスル軍法會議組織セラルル旨榮參謀長ヨリ通知

アリタ邊尙吳法官ハ多分明日中位ニ歸任ノ豫定ナリ

公使、北平、南京、齊、哈爾濱、哈爾濱、鄭家屯ヘ轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十七日後發
同 昭和六年九月十七日後發
同 昭和六年九月十八日後發

電信第六〇五號 (暗)

往電第六〇二號ニ關シ

關團長公憲兵司令部ニ監禁シテ於テ同人訊問ニ關シテハ顔軍法處
 長ヲ主席トスル軍法會議組織セラレル旨榮參謀長ヨリ通知
 アリタリ尙吳法官分多分明日中位ニハ歸任ノ豫定ナリ
 公使台北平ニ南京、齊校哈爾、哈爾賓、鄭家屯ニ轉電セリ
 十六日晝何レモ騎馬ニテ西北方ヨリ蘇鄂公府ニ到着セルニ付初三
 團歩哨隊ニ於テ一應取調ヘテ行ヘルニ中村及井杉ハ充分支那語ヲ
 解セズ旅行護照ヲモ携帶セズ中村ハ身分ヲ醫學士東京藥明學會幹
 事、旅行目的ヲ農業視察ナリト答ヘ河ノ邊ニ於テタカノ間ニ對

外務省

第テハ特號 明答ヲ避ケテ戲談半分ニ天ヨリ降リタリト語ル等疑ノ
 筋アリ 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 蒙古人ニ付訊問セル結果
 中村ハ軍事探偵ナリト告ケタルカ日本ノ昭和六年九月十八日後發
 遇シ態々外ノ飯屋ニ連レ行キ食事ヲ執同シ 六年九月十八日後着
 電信第六ノ一號ノ發覺(暗)命ニ危險ノ及フコトヲ恐レタル爲カ翌二
 中村事件ニ關係シ一行ト共ニ脱走セルニ依リ(續ク) 中村ハ
 十八日森岡對榮參謀長ノ會見ニ於テ榮ハ左ノ通説明セリ
 吳調查員十八日午前歸任シ報告書ヲ提出セルカ(詳細ノ説明ハ未
 タ之ヲ聞カス)自分(榮參謀長)カ今日迄關團長ニ付調査セル處
 ヲ綜合スルニ中村、井杉、支那籍露國人及蒙古人ノ四名ハ六月二
 十六日晝何レモ騎馬ニテ西北方ヨリ蘇鄂公府ニ到着セルニ付第三
 團歩哨隊ニ於テ一應取調ヘヲ行ヘルニ中村及井杉ハ充分支那語ヲ
 解セス旅行護照ヲモ携帶セス中村ハ身分ヲ農學士東京黎明學會幹
 事、旅行目的ヲ農業視察ナリト答ヘ何レヨリ來リタルカノ問ニ對

多テハ特ニ明答ヲ避ケテ戲談半分ニ天ヨリ降りタリト語ル等疑ノ
 筋アリ夜元ヲ以テ一行ヲ團部區連行軍蒙古人ニ付訊問セル結果
 中村ハ軍事探偵ナリト告ケタルカ日本隊移古年ニモアリ可寧ニ待
 遇シ態々外ノ飯屏ニ連レ行キ食事ヲ執行シ六居ル所ニ中村ハ軍
 事探偵ナルコト發覺シ生命ニ危險ノ及フコトヲ恐レタル爲カ翌二
 十七日夜間ニ捕隊ヲ一行ト共ニ脱走セル方ニ依向ヒ(續ク)追捕隊カ中村
 等ニ接近スルヤ中村一行側ヨリ拳銃(南部式)ヲ發射シタルヲ以
 テ追捕隊ヨリ小銃ヲ亂射シタル爲一行ハ全部其場ニ死亡セリ同追
 捕隊ハ事ノ重大性ヲ恐レ其儘逃亡シタルカ他ノ方南ニ向ヒタル別
 ノ追捕隊カ銃聲ヲ聞キ付ケ現場ニ至リ中村一行死亡ノ光景ヲ見テ
 即時團長ニ報告セル處關ハ重大ナル國際問題ヲ惹起スル處アリ
 トテ即時證據煙滅ヲ企テ中村ノ支那服「ズボン」ニ收メ居ル手轄
 二冊軍用地圖二枚青寫眞一枚ヲ殘シ屍體及他ノ證據物品ヲ全部其
 夜ノ中ニ燒棄ヲ命シタル結果第三團兵士ノ手ニ依リ立所ニ右命令

第 執行シ號馬モ亦翌廿八日ニ至リ燒棄セラレタリ（續ク）
在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日後發
同 六年九月十八日後着

電信第六一一號ノ二（暗）

各方面ニ追捕隊ヲ出シタルカ東北ノ方面ニ向ヒタル追捕隊カ中村
等ニ接近スルヤ中村一行側ヨリ拳銃（南部式）ヲ發射シタルヲ以
テ追捕隊ヨリ小銃ヲ亂射シタル爲一行ハ全部其場ニ死亡セリ同追
捕隊ハ事ノ重大性ヲ恐レ其儘逃亡シタルカ他ノ方面ニ向ヒタル別
ノ追捕隊カ銃聲ヲ聞キ付ケ現場ニ至リ中村一行死亡ノ光景ヲ見テ
即時關團長ニ報告セル處關ハ重大ナル國際問題ヲ惹起スル虞アリ
トテ即時證據煙滅ヲ企テ中村ノ支那服「ズボン」ニ收メ居ル手帳
二冊軍用地圖二枚青寫眞一枚ヲ殘シ屍體及他ノ證據物品ヲ全部其
夜ノ中ニ燒棄ヲ命シタル結果第三團兵士ノ手ニ依リ立所ニ右命令

外務省

考執行シ乘馬モ亦翌廿八日ニ至リ燒棄セラレタリ（續ク）
在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日後發
同 六年九月十八日後着

電信第六一一號ノ三（略）

大要右ノ通ナルカ關團長ノ正式訊問ニ關シテハ特ニ軍法會議ヲ開
ク筈ニテ議長ノ人選方ト共ニ十七日張副司令宛電報ニテ請訓セル
ヲ以テ指令アリ次第訊問ヲ開始スヘク證據品トシテ關團長カ持來
セル前記手帖及地圖ニ付テモ充分研究スル積リナルカ右手帖ノ内
容（榮ハ手帖二冊ヲ森岡ニ示シタルカ地形物資等ニ詳細ナル記述
及見取圖アル外所々ニ作戰上ノ意見ヲモ記入シ其ノ他旅費ノ計算
携帶品等ニ關シテモ詳細ニ認メアリタリ）ニ關シテハ國防ニ關ス
ル機密ノ部分ヲ除キ追テ公表シタシトモ考へ居レリ云々
支、南京、北平、鄭家屯、哈爾濱へ轉電セリ

外務省

第爾賓ヨ號齊々哈爾へ轉電アリタシ

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日後發
同 六年九月十八日後着

電信第六一一號ノ三(暗)

大要右ノ通ナルカ關團長ノ正式訊問ニ關シテハ特ニ軍法會議ヲ開ク等ニテ議長ノ人選方ト共ニ十七日張副司令宛電報ニテ請訓セルヲ以テ指令アリ次第訊問ヲ開始スヘク證據品トシテ關團長カ持來セル前記手帖及地圖ニ付テモ充分研究スル積リナルカ右手帖ノ內容(榮ハ手帖二冊ヲ森岡ニ示シタルカ地形物資等ニ詳細ナル記述及見取圖アル外所々ニ作戰上ノ意見ヲモ記入シ其ノ他旅費ノ計算携帶品等ニ關シテモ詳細ニ認メアリタリ)ニ關シテハ國防ニ關スル機密ノ部分ヲ除キ追テ公表シタシトモ考へ居レリ云々
支、南京、北平、鄭家屯、哈爾賓へ轉電セリ

哈爾濱ヨリ齊々哈爾へ轉電アリタシ

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日發
同 六年九月十八日發着

電信第六一二號 (暗)

往電第六一一號 (暗)

榮臻ノ談話其ノ他ヲ綜合考察スルニ中國側ハ殺害ヲ否認セサルモ
中村等カ逃亡ヲ企テ奉銃ヲ發射シタルヲ以テ追捕ノ軍隊カ發砲
ノ結果死亡スルニ至レリ曰旅券ヲ携帶セス曰軍探偵ノ口實ヲ以
テ責任ヲ輕減スヘク日本側ニ對スル辯明方針ヲ打合セ居ルニ非ス
ヤト察セララルヲ以テ本官一兩日中中國側説明ノ疑ハシキ點ニ關
シ減主席及榮臻ニ會見反問スル藉リナルモ結局ハ反證ヲ提示スル
必要起ルヘキニ付右ニ關シ特(務)機關側ト打合中ナリ
前電ノ通り轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日發着

電信第六一三號(暗)

往電第六一三號(暗)

榮臻談話其ノ他日綜合考察スルニ中國側ハ殺害ヲ否認セサルモ

(一)中村等カ逃亡ク企テ拳銃ヲ發射シタルヲ以テ追捕ノ軍隊カ發砲

ノ結果死亡スルニ至ルハ旅券ヲ携帶セシテ軍探偵ノ口實ヲ以

テ責任ヲ輕減スルヘク日本側ニ對シテ辯明方針ヲ打合セ居ルニ非ス

ヤト察セララルヲ以テ本官一兩日中中國側説明ノ疑ハシキ點ニ關

シ減主席及榮臻ニ會見反問スル積リナルモ結局ハ反證ヲ提示スル

必要起ルヘキニ付右ニ關シ特(務)機關側ト打合中ナリ

前電ノ通り轉電セリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日
同 昭和六年九月十九日
發着

電信第六一三號(暗)

往電第六一一號ニ關シ

榮參謀長ハ昨十七日陳興亞ヨリ調查大體目鼻附キ殆ルニ付一兩中

中歸任ノ途ニ成ク旨電報アリ然ル處吳ノ報告及關ノ自以テ別

段變リタルコトモナカシ支那側考ヘ居ル由語外タル趣テカ往電

第六一二號ニモ關聯シ思ヒ當ル節アリ村ニモ考ヘテルル類以テ爲

念左ノ通説明シ置ケリ

轉電先往電第六一號ノ於通候前領事ニ對シ第二回調査隊十八日午

前歸奉シタル處右報告並圖ノ畫白ニ依レハ中村一行ハ六月廿六日

捕縛セラレ翌廿七日夜官兵ニ依リ殺害セラレタル旨通ヘタリ

轉電先旨如往電ノ通

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十八日後發
同 六年九月十九日前着

電信第六二四號（暗）

往電第六一〇號ニ關シ

支那側ニ於テ殺害ノ事實ヲ承認セル以上第二段ノ措置トシテ責任ノ程度ヲ明確ニ爲スル爲メ殺害ノ經過ニ關シ反證ヲ舉ケ事實ヲ穿鑿スル必要アリ此處右ニ先立チ支那側ノ言分カク外部ニ發表セラルルカ如キコトアラハ彼我ノ折衝止不利ニ付當館ニテハ新聞通信ニ對シ左ノ通説明シ置ケリ

榮臻ハ十八日ノ會見ニ於テ森岡領事ニ對シ第二回調査隊十八日午
前歸奉シタル處右報告竝關ノ審白ニ依レハ中村一行ハ六月廿六日
捕縛セラレ翌廿七日夜官兵ニ依リ殺害セラレタル旨述ヘタリ
轉電先冒頭往電ノ通り

外務省

昭第 6

號一六二八

暗 奉天

十九日前發

幣原外務大臣宛九日前着

第六一六號 (大至急)

奉天

昭和六年九月十八日後發
同 六年九月十九日前着

電信第六五號 (暗)

本官發齊々哈爾宛電報
本官發大臣宛電報第六一二號ノ通大至急有力證人ノ抱込其他證據ノ蒐集ヲ必要トスルニ付此上トモ精々御配慮ヲ請フ大臣ヘ轉電セリ

外務省

昭和6

一二六三八

暗

奉天

十九日前發
九月十九日前着

幣原外務大臣

第六一六號（大至急）

林總領事

十八日午後十時半滿鐵本線柳條溝本當地北大營附近附近在鐵道
 口爆破七九天了也支那兵ノ處置ナク報告テ我カ守備隊ノ出動ヲ
 見北大營附近於テ日支交戰中ナリ事力警察報告ヲ接ヌ不取敢（年
 后亦無時抗在支公使及各領事在滿洲各領事へ轉電セリ

外務省

昭和6

一二六五三

暗

奉天

本省

十九日前發
九月十九日前着

亞

幣原外務大臣

第六一八號（至急）

林總領事領事

十八日午後十一時十五分交渉署日本科長ヨリ森岡領事宛電話ニテ
 日本兵北北大營ヲ包圍シツツア板垣ヲ報告アリ依テ森岡ハ本件衝
 突ヲ出來ル丈小井ヲ北北大營ニ爲相互ニ努力スル様語合ヒ勿ルガ支那
 側ニ無抵抗主義ヲ出ツル旨語ヲ由方面ニ前進中ナルヲ虎石臺分
 支遣北平我南京ヲ轉電セ又戰トナリタル爲虎石臺ノ中隊ハ同北大
 營ノ敵兵五六百名ト交戦ノ上北大營ノ西北隅ヲ占領シ交戦中ナ
 ルカ支那側兵力ハ漸次増加シツツアリ尙當地守備隊全員ヲ前線
 ニ増派シ駐屯聯隊ハ目下出動準備中ナリ（十一時半）
 支 南京、北平へ轉電セリ

外務省

昭和6 一二六五五

暗

奉天 本省

九月十九日 前發

亞

幣原外務大臣

第六一九號 (至急)

往電第六一六號ニ關シ

森島ヲ特務機關ニ派遣シ

十八日午後十時半北大營ヲ將校ヲ指揮セル支那軍三四百名北大

營西南方鐵道線路ヲ爆破シ柳條溝方面ニ前進中ナルヲ虎石臺分

遣所ノ我カ巡察兵發見交戦トナリタル爲虎石臺ノ中隊ハ同北大

營ノ敵兵五六百名ト交戦ノ上北大營ノ西北隅ヲ占領シ交戦中ナ

ルカ支那側兵力ハ漸次増加シツツアリ尙當地守備隊全員ヲ前線

ニ増派シ駐屯聯隊ハ目下出動準備中ナリ(十一時半)

支・南京・北平へ轉電セリ

林總領事

外務省

昭和6

一二六五六

暗奉天

本省

九月十九日前發
九月十九日前着

幣原外務大臣

第六二〇號 (至急)

林總領事總領事

往電第六一九號關沈庶務課長當館ニ來訪シ九月十四日撫順守備
 本官ハ本件ヲ出來得ル丈小知テシ會長方針ヲ以テ我軍及支那側
 聯絡ヲ執断シ最善方努力ヲ拂ヒツテリ同守備隊長ハ中村事件交
 渉支援北平行南京へ轉電モリ八日午後十一時三十分頃出發牛相
 屯ニ至リ下車シ渾河ヲ渡シ支那飛行機ヲ襲フ計畫ニ付滿鐵ハ列
 車ヲ準備セラレタリ又出發後ノ炭坑防備ハ在郷軍人ヲ主トスル防
 備隊ニ於テ當ラレタリ但シ本件ハ嚴秘ニ附セラレタリト進ヘタル
 カ十七日朝ニ至リ本件ハ交渉上ニ都合ニ依リ一時延期トナリ
 旨通告ヲ爲セリトノ報告ヲ爲シタルカ本官ハ右ハ出先守備隊力
 村事件ニ關シ興奮ノ餘リ準備セラル計畫ニ
 實現セラレサル

外務省

昭和六年六月二十六日

幸幣原外務大臣

支幣原外務大臣

第六二一號

林總領事

九月十七日夜撫順炭坑庶務課長當館ニ來訪シ九月十四日撫順守備隊長ハ臨時警備會ヲ開キ在郷軍人會長警察署長憲兵隊長炭坑庶務課長撫順驛長及大官屯驛長ノ參集ヲ求メ同守備隊長ハ中村事件交渉應援軍事行動ノ一トシテ十八日午後十一時三十分頃出發牛相屯ニ至リ下車シ渾河ヲ渡涉シ支那飛行機ヲ襲フ計畫ニ付滿鐵ハ列車ヲ準備セラレタク又出發後ノ炭坑防備ハ在郷軍人ヲ主トスル防備隊ニ於テ當ラレタシ但シ本件ハ嚴秘ニ附セラレタシト述ヘタルカ十七日朝ニ至リ本件ハ交渉上と都合ニ依リ一時延期トナリタル旨通告ヲ爲セリトノ報告ヲ爲シタルカ本官ハ右ハ出先守備隊力中村事件ニ關シ興奮ノ餘リ準備セル計畫ニシテ實現セラレサルモノ

外務省

昭和六年四月二十九日
ト觀察シタルモ尙爲念木村理事ト聯絡シ注意ヲ怠ラサリシ際ニ不

幸ニ四月八日夜ノ衝突事件ヲ惹起スルニ至レリ

支、北平、號南京へ轉電セリ

往電第六一八號ニ關シ

十九日午前零時交渉署日本科長ヨリ更ニ電話ニテ目下日本軍ハ北

大營ヲ包圍セルノミナラス北門外モ其ノ占領下ニ在ル趣右ニ對シ

中國側ニ於テハ全然無抵抗主義ヲ執リ、ソツアリ右日本軍側ノ行動

ハ如何ナル理由ニ依ルカハ別ニ御尋ネスヘキモ内外人雜居ノ地ニ

シテ影響スル所電大ナルヲ以テ砲火ヲ城内ニ波及スルカ如キハ絶

對ニ防止セラレタキ旨申越シアリタリ依テ支那側ニ對シテハ事件

ノ發生ハ支那軍ノ滿鐵鐵道破壞ニ基因スルニ依リ責任ハ支那側ニ

在ルコトヲ告ケ外國人ノ生命財產保護ノ點ニ付テハ我軍側ニ對シ

モ充分留意シ居ル旨述ヘ置キタリ

外務省

昭和6

二二六七七四南暗

奉天
本省

十九日前發
九月十九日前着

幣原外務大臣

第六二三號

林總領事

往電第六一八號ニ關シ

十九日午前零時交渉署日本科長ヨリ更ニ電話ニテ目下日本軍ハ北
 大營ヲ包圍セルノミナラス北門外モ其ノ占領下ニ在ル趣右ニ對シ
 中國側ニ於テハ全然無抵抗主義ヲ執リツツアリ右日本軍側ノ行動
 ハ如何ナル理由ニ依ルカハ別ニ御尋ネスヘキモ内外人雜居ノ地ニ
 シテ影響スル所重大ナルヲ以テ砲火ヲ城内ニ波及スルカ如キハ絶
 對ニ防止セラレタキ旨申越シアリタリ依テ支那側ニ對シテハ事件
 ノ發生ハ支那軍ノ滿鐵鐵道破壞ニ基因スルニ依リ責任ハ支那側ニ
 在ルコトヲ告ケ外國人ノ生命財產保護ノ點ニ付テハ我軍側ニ於テ
 モ充分留意シ居ル旨述ヘ置キタリ

外務省

轉電先

在支公館、

南京、北平

幣原外務大臣

第六二六號

十九日訂發
九月十九日前着

十九日午前二時、交渉者日本科長、目下日本軍へ西塘地公安局
 第二及第三分隊、古岡之更ニ城内ニ向ソテ進
 無抵抗ニ進出シ出アル方針ナルニ付日本軍ニ於テ殺傷
 民衆暴逆ニ行爲大ニ採取計ハレ事態ヲ擴大ヲ防ク様
 電話アリ
 右直ニ軍調ニ送シ置キタリ

外務省

昭和6

一四一六八一

暗奉天

十九日前發

幣原外務大臣

第六二六號

奉天

林總領事

昭和六年九月十九日前發

往電第六二二三號ニ關シ

同 六年九月十九日前着

十九日午前二時交涉署日本科長ヨリ門内居住者ハ商場地公安局第

二及第三分局ヲ占領シ更ニ城内ニ向ツテ進赤十字病院及朝鮮

無抵抗ノ態度ニ出ツル方針ナルニ付日本軍ニ於テ發砲ヲ止メ又住

民ノ暴逆ノ行爲ナキ様取計ハレ事態ノ擴大ヲ防ク様セラレタキ旨

電話アリ

右直ニ軍側ニ通シ置キタリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十九日前發
同 昭和六年九月十九日前發

電信第六二七號 (暗急) (暗)

當地域內居住邦人ハ滿鐵公所ニ公積門內居住者ハ他安奉線各地ノ軍
銀行內ニ任意引揚ケ注ムルコト當ニ地取計ヒタリ尙商埠地ハ目下ノ處
其ニ必要ヲ認メス拘ラス兵工廠及域內副司令官部
在支公使ニ轉電セリ

支、北平、南京へ轉電セリ

外務省

第 號

昭和 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

幣原外務大臣

奉天

昭和六年九月十九日前發

同 六年九月十九日前着

電信第六二九號(至急)(暗)

滿鐵側ノ情報ニ依レハ海域、公主嶺、鞍山其ノ他安奉線各地ノ車
 隊ハ臨時列車ニ依リ主トシテ當地ニ集中スルモ如ク或ハ十九
 日晝抵抗ノ有無ニ拘ラス兵工廠及域内副司令部ヲ攻撃破壊スルニ
 コアラハシャヤト察セラレルニ困難ヲ加フヘキニ付此邊ヲモ考慮ニ入レ
 極力支那、北平、南京(轉電セリ) 於テモ極力事件ノ擴大防衛ニ力メ
 於テモ極力事件ノ擴大防衛ニ力メテ各地方ニ對シ當方ニ
 於テモ極力事件ノ擴大防衛ニ力メテ各地方ニ對シ當方ニ
 於テモ極力事件ノ擴大防衛ニ力メテ各地方ニ對シ當方ニ

外務省

昭和6 一二六五五

暗

奉天

十九日前發

本省

九月十九日前着

幣原外務大臣

林總領事

第六三一號

臧主席及交渉員ヨリ日本軍ノ行動ニ對シ中國側ハ全然無抵抗主義ヲ執リ既ニ商埠地及大西關等ノ公安分局ヲ其占領ニ委セ居ルニ拘ラス日本軍ハ機關銃及小銃ヲ連發シ無抵抗ノ軍民ニ害ヲ加ヘ居ルコトハ事件ノ善後收拾ニ困難ヲ加フヘキニ付此邊ヲモ考慮ニ入レ極力軍側ノ行動抑制方刻々引續キ電話要請シ來レルニ對シ當方ニ於テモ極力事件ノ擴大防止ニ力メ居ル旨然ルヘク應酬シ置キタリ

外務省

昭和6 號二六六六 暗

奉天

十九日前發

幣原外務大臣

在奉天林總領事ヨリ本省外務 九月九日前着

第六三二號

奉天 昭和六年林總領事

同 六年九月十九日前着

本任軍司令官ハ十九日午前三時臨時列車ニテ旅順發當地ニ向ヘル旨軍側ヨリ通報アリタリ

公使理南京北平ニ轉電セリ軍司令官ニ對シ何等措置アリタリヤ

否ヤヲ確メタル處軍司令官ハ一九日午前三時旅順ヲ出發シ本官ノ目的ハ結局達セラレサリシ趣ナリ

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月十九日前發

同 六年九月十九日前着

電信第六三三號(極秘)(暗)

往電第六二五號ニ關シ

木村理事ヲ通シ内田總裁ヨリ軍司令官ニ對シ何等措置アリタリヤ

否ヤヲ確メタル處軍司令官ハ十九日午前三時旅順ヲ出發シ本官ノ

目的ハ結局達セラレサリシ趣ナリ

同俱樂部内ニ於テタルカ...

トニシテ到底常識ヲ以テ考ヘ得サル...

ヘク自分ハ國務省ニ對シ此點ヲ...

タル趣ナリ

...

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十九日前發

同

六年九月十九日前着

電信第六三四號（暗）

十九日午前四時半米國副領事館員ヲ來訪シ興奮セル面持ニテ先刻
 日本軍ノ意嚮トシテ外國居留民ノ保護ニハ充分努力スヘシトノ御
 話アリテ間モ無ク商埠地内「ムクデン クラブ」附近ニテ日本兵
 カ中國人搭乗ノ自動車ニ向ケ發射セル機關銃彈折柄舞踏開會中ノ
 同俱樂部内ニ飛込ミタルカスノ如キハ世界ノ何處ニモ類例無キコ
 トニシテ到底常識ヲ以テ考ヘ得サルコト（*unthinkable*）ト謂フ
 ヘク自分ハ國務省ニ對シ此點ヲ特ニ強ク電報スル所存ナリト述ヘ
 タル趣ナリ

尙太平洋會議ニ出席ノ爲旅行中ナル「スレイド」夫妻ハ目下當地

外務省

IMT 424

158

203. Doc No. 2194-X.
The No. 635

ニ滞在シキ九日當地發北平ニ向テ豫定ナリ爲念前發

本省 九月十九日前着

林總領事

（梅）
任ノ原因ニ付テハ陸軍側ノ所報ニ疑ノ餘地多キモ差當リ外
露側ニ對シテハ陸軍側ノ説明通り回答シ居ル次第ナル處豫
後極方針宣傳マレモコトニキアリ果シテ充分ノ納得
得ルヤ頗ル疑ハトモ考セラル所ニハ右ニ關シ何等注意
示スルナシ

外務省

Ips Doc No. 2194-X
Tel. No. 635

昭和6 一二六八四 暗

奉天 十九日前發
本省 九月十九日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第六三五號（極秘）

今次事件ノ原因ニ付テハ陸軍側ノ所報ニ疑ノ餘地多キモ差當リ外人側ノ質問ニ對シテハ陸軍側ノ説明通り回答シ居ル次第ナル處豫テ陸軍ノ積極方針宣傳セラレ居ルコトニモアリ果シテ充分ノ納得ヲ期待シ得ルヤ頗ル疑ハシト思考セラレ就テハ右ニ關シ何等御意見モアラハ至急御回答アリタシ

支、南京、北平ニ轉電セリ

外務省

昭和6 一二六八七 暗 奉天 十九日前發
昭和6 一二六八八 暗 奉天省 九月十九日前發
本省 九月十九日前發

幣原外務大臣

第六三六號

林總領事

第六三七號

十九日午前六時迄ノ狀況（警察報告）左ノ通り

昨夜十時半頃爆破サレタル柳條溝附近ノ滿鐵線ハ今朝六時頃修理完了列車ノ運行ヲ開始セリ

支、北平、南京、在滿洲各領事、轉電セリ

ニ北大營ハ本朝二時半完全ニ占領セラレ支那軍隊ハ全部東方ニ退却セリ工業區内迫撃砲工廠及無線電臺モ未明占領セラレタリ

三北寧線ハ滿鐵「クロス」點ニ於テ遮斷工事ヲ施シ北支那ニ通スル電信電話ハ全部切斷セラレタリ

四師團司令部ハ午前四時半當地到着

支、南京、北平ニ轉電セリ

外務省

昭和6 一二六八八

暗奉天天

十九日前發發

本省省九月十九日前着着

幣原外務大臣

林林總領事

第六三七號

昨夜十時半頃爆破サレタル柳條溝附近ノ滿鐵線ハ今朝六時頃修理
 完了列車以運行ヲ開始セリノ占領ヲ了シ第二十九聯隊本部ヲ大北
 支外北平暨南京有在滿洲各領事ト轉電モリ通行者稀ニテ店舗ハ閉
 鎖サレソツアリ目下ノ處甚ク混亂ニ陥ルカ如キ模様ナシ
 公使、南京、北平へ轉電セリ

外務省

昭和6 一二六九一

暗

奉天

十九日前發

在奉天林總領事ヨリ本省外九月十九日前着

幣原外務大臣

第六三八號

奉天

昭林總領事月十九日前發

同 六年九月十九日前着

午前七時ノ狀況左ノ通

日本軍ハ既ニ省城内各官署ノ占領ヲ了シ第二十九聯隊本部ヲ大北門外我方陸軍所有地ニ設置セリ尙城内ニハ通行者稀ニテ店舗ハ閉鎖サレツツアリ目下ノ處甚ダシク混亂ニ陥ルカ如キ模様ナシ
公使、南京、北平へ轉電セリ

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十九日前發
同 六年九月十九日前着

電信第六四〇號(暗)

往電第六二一號撫順警備會談ニ關シテハ同電所載炭坑庶務課長ノ
 報告ニハ一時延期トナリタリトノ趣ナリシモ本官ヨリ直ニ軍司令
 官ノ注意喚起方手筈(郵便ニテ)ヲ取り置キタルモ十八日夜事件
 發生セル爲遂ニ間ニ合ハサリシ次第ナリニテ
 支那系 於牛天抄會セリ
 本件ノ發生シテハ
 本官ハ極力注意シテ
 軍部行動ニ依リ
 文部省ノ關係
 ヲ受テ
 外務省
 力ヲ盡ス

外務省

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天

昭和六年九月十九日
同六年九月十九日
後着

電信第六四一號(暗)

當地獨逸領事へ十九日早朝來訪シ領員ヨリ日支衝突事件ノ情報ヲ
 聽取リタル上左ノ通語レル趣ナリ
 若シ支那兵力鐵道ヲ破壞シタリトセハ不都合ナルカ最近日本ノ新
 聞カ旺ンニ對支強硬論ヲ書立テタル際ナレハ衝突事件ヲ通シ何ト
 ナク別ニ日本側ノ達セントスル目的アルニアラスヤトノ感ヲ免カ
 レス中村事件交渉モ順調ニ進行中ノ模様ナルニ本件ノ發生ヲ見タ
 ルハ極メテ遺憾トスヘク目下ノ軍事行動ニ依リ全ク支那側ノ保護
 ヲ受ケ得サルニ至レル在留外國人ノ生命財產ハ極力保護アリタキ
 モノナリ云々

外務省

第 號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天 昭和六年九月十九日 前發

同 同 六年九月十九日 前發

電信第六四三號 (暗)

今次事件ハ其影響スル所廣範圍ニ亘ルヘク從テ東支沿線奧地其他
我方保護ノ手及ハサル地方ノ在留民ニ對シテハ或ハ引揚命令ノ要
アルニ至ルコトナキ自保各難カルハ前ト思考セラルルニ付テハ右
至急御考究ノ上御指示煩ハシタシ
支那北平南京、在滿各領事へ轉電セリ

外務省

第 昭和 6 號 二七四〇 暗 奉天 九月十九日後發

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛九日後着

幣原外務大臣

奉天 昭和六年九月十九日前發

第六四四號

同 六年九月十九日前着

電信第六四三號 (九暗) 正午奉天ニ移リ事務所ヲ附屬地大廣場東拓ノ

本官發新民府宛電報

第二號 北平、南京、在滿各領事ニ轉電セリ

貴地邦人保護の爲警官五名十九日午前十一時當地發モ一ターカ

ニテ出發ス

大臣ニ轉電セリ

外務省

昭和6 一二七四〇 暗

奉天 九月十九日 後發
本省 九月十九日 後著

幣原外務大臣

林總領事

第六四四號

關東軍司令部十九日正午奉天現移事務所附屬地大廣場東拓ノ
樓上ニ置カムトシテ板垣參謀ニ申入レタル希望ヲ始メ對支那側及
支ハ北平、南京、在滿各領事へ轉電セ說明シ對外人關係ノ重大性
及治安維持ノ必要ヲ語リ本官ハ尙出來得ル丈ケ事件ノ擴大セサル
コトヲ希望スルモ對外人關係及治安維持其ノ他ニ對シ全力ヲ舉ケ
テ軍ニ協力スル覺悟アル旨ヲ申入レタルニ軍司令官ハ好意ヲ贈シ
數日前沿線巡視ニ當リ各軍隊ニ對シ有事ノ日ニ備フル爲常ニ充分
ノ用意ヲ怠ラサルヘキコトヲ命シタルモ決シテ早マリタル行動ニ
出ツルコトナキ様嚴ニ訓戒シ置キタルニ昨夜支那兵ノ滿鐵破壞ニ
引續キ附近ニ演習中ノ我守備兵ニ對スル攻撃トナリ重大ナル事

外務省

昭和8年九月十九日午後二時

奉天十時旅順十九日後發信ニ一時間後ニ

報告ニ接シ事ノ意外ニ驚キタルカ事茲ニ至リテハ沿線ノ治安維持

幣原外務大臣 林總領事

第六四七號

十九日午後二時軍司令官ニ會見シ今回ノ事件發生後本官カ事件ノ
擴大ヲ防カムトシテ板垣參謀ニ申入レタル希望ヲ始メ對支那側及
外人ニ對スル處置其ノ他諸般ノ狀況ヲ説明シ對外人關係ノ重大性
及治安維持ノ必要ヲ語り本官ハ尙出來得ル丈ケ事件ノ擴大セサル
コトヲ希望スルモ對外人關係及治安維持其ノ他ニ對シ全力ヲ擧ケ
テ軍ニ協力スル覺悟アル旨ヲ申入レタルニ軍司令官ハ好意ヲ謝シ
數日前沿線巡視ニ當リ各軍隊ニ對シ有事ノ日ニ備フル爲常ニ充分
ノ用意ヲ怠ラサルヘキコトヲ命シタルモ決シテ早マリタル行動ニ
出ツルコトナキ様嚴ニ訓戒シ置キタルニ昨夜支那兵ノ滿鐵破壞ニ
引續キ附近ニ演習中ノ我守備兵ニ對スル攻撃トナリ重大ナル事態

外務省

ヲ惹起スルニ至レリ自分ハ昨夜十時旅順ニ歸着シ僅ニ一時間後ニ
報告ニ接シ事ノ意外ニ驚キタルカ事茲ニ至リテハ沿線ノ治安維持
ニ全力ヲ盡ササルヘカラス其ノ爲ニハ總領事ノ協力ニ俟ツヤ切ナ
第モ四ノアヲ述ヘタルニ依リ今後ノ密接ナル聯絡ニ關シ打合ヲ遂
往ケタリ六四七號ニ關シ

電報先、北平ニ依公使ハ南京幸ニ支那軍ノ退却ニ依リ表而一段落
ヲ告ケタルモ長春ニ於テハ今尙戰闘終結不レニ至ラサルカ多分今
日中ニハ一段落ヲ告グルモノト豫期シツツアリ朝鮮ヨリ約一ケ旅
團ニ飛行隊ヲ含む下ハ應援隊二十日朝鮮地ニ着スル筈ナルガ只今
ノ處軍トシテハ新民屯ニ於ケル遼河ノ鐵橋迄ハ何等カノ障礙
ハ必要アリト考フルモ四地線等ニ對シテハ未タ何等ノ計畫
居ラズ云々

支、北平、南京、長春へ電報セリ

外務省

昭和6 一二七四八

暗

奉天 本省

九月十九日後發

亞

幣原外務大臣

第六四八號

林總領事

往電第六四七號ニ關シ見ニ當リテハ往電第六二一號撫順ニ於ケル
 軍司令官ノ談ニ依リ合當地ハ幸チ支那軍ヲ退却シ依リ表面一段
 落ヲ告ケタルモ長春ニ於テハ今尙戰鬪終結セズ至者サルカ多分今
 日中ニ合一段落ヲ告グルモノト豫期シツツアリ朝鮮ヨリ約一ケ旅
 團ニ飛行隊ヲ含ムルノ應援隊二十日朝當地ニ着スル筈ナルカ只今
 ノ處軍トシテハ新民屯ニ於ケル遼河ノ鐵橋迄ハ何等カノ措置ヲ爲
 ス必要アリト考フルモ四洮線等ニ對シテハ未タ何等ノ計畫ヲ爲シ
 居ラス云々

支、北平、南京、長春へ轉電セリ

外務省

昭和6 一二七六六 暗奉天 九月十九日後發 函

幣原外務大臣 幣原外務大臣 林總領事

第六四九號

十九日軍司令官トノ會見ニ當リテハ往電第六二二一號撫順ニ於ケル

警備會議ニ關スル報告ヲ十七日夜接取シ軍司令官ニ書翰ヲ以テ注

意ヲ喚起ノ通信ヲ發シタル點等本省ニ報告濟ナル旨ヲモ語り置キ

タリ御含迄 本線ヲ爆破シ 十九日朝復舊一柳條溝方面ニ前進中ヲ我カ鐵道巡

轉電先、公使、南京、北平 察兵發見彼我交戦トナリ我軍ハ北大營ヲ包圍シ其ノ一隊ハ北門外

ニ迫リ別働隊ハ橋埠公安局ヲ占領シ十五日未明城内各官署、北大

營、追撃砲工廠及無線電機ハ我軍ノ有ニ期シ駐劄第二聯隊本隊ハ城

内我カ陸軍所有地ニ設置ナリ

此ノ間北電線ハ滿洲一ノロス一點ニテ無音トナリ施シ支方

外務省

面内電信電話を全部切斷サル
 關東軍司令部十九日午前
 三時旅順發同日正午當地
 附屬地内ニ
 設セタル赤嶺張家口ハ
 事件發生ト共ニ城内居住邦人ハ
 滿鐵公所ニ邊門内居住者ハ赤十
 字病院及朝鮮銀行ヲ任意引揚ケシメタル外在留外人保護ニ付テハ
 軍部ト協議シ萬全ヲ期シツツアリテ何レモ死傷者ナシ我軍側ニハ
 數名ト重輕傷者アリ
 城内ハ店舗ヲ閉鎖シ混亂ノ模様ナシ
 滿鐵沿線各地ヨリモ増援隊來奉シツツアリ又沿線主要地ニ於テ
 モ當地同様支那兵ノ武裝解除等ヲ行ヒツツアリ
 本電左記ニ依リ轉電又ハ轉報ヲ請フ
 公使ヨリ上海、漢口、蘇州、杭州、蕪湖へ
 漢口ヨリ鄭州、九江及上流各館へ
 廣東ヨリ香港、雲南へ

濟南ヨリ張店七梅田へ暗

奉天

十九日後發

青島ヨリ芝罘、坊子へ

本省

九月十九日後着

北平原外務大臣張家口へ

奉天

林總領事

第六五二號 分館へ

六年九月二十日

哈爾濱ヨリ齊齊哈爾、滿洲里へ

長春ヨリ吉林、農安へ

鐵嶺ヨリ海關へ管理ヲ為サントスル意向ナルヤノ趣ノ處本官軍司

令官ニ面會シ際質問シタルニ司令官ハ我軍ハ海關ニ對シテ何等

干渉セザルニ轉電セテ居タリ

文、北平、上海大臣、南京へ轉電セリ

...

...

...

...

外務省

昭和6 二七六三

暗 奉天

十九日後發

在奉天林總領事ヨリ本省外務大臣

幣原外務大臣

奉天

林總領事

九日後發

第六五二號

同 昭和六年九月二十日前着

本官發牛莊宛電報暗

貴電合第二八號末段ニ關シ四一號ニ關シ

日本軍兵海關ノ管理ヲ爲スルニ意向ヲ爲シ本官軍司

令官ニ面會ニ際質問シタルニ司令官ハ我軍ハ海關ニ對シテ

干渉セザル様訓令濟ナル旨答ヘ居發リシテ作成セル本國政府宛電

文案北平上大臣ハ南京内轉電ヲ以テ破壊後我出先機關ヨリ東京ニ

報告シ其回訓ヲ待ツテ軍ノ行動開始セラレタリトスル部分アリタ

ルニ付訂正シ備キタリ佛國領事ハ單ニ南方ノ説明ヲ聽取スルノ

ミナリシモ雲南領事ハ支那官兵ノ爆破行爲ト言フモ元來支那ニ官

兵ナルモノアリヤト皮肉ノ言辭ヲ奉シ又埃太利名譽領事ハ兵工廠

外務省

隣近ニ居號スル埃國人技師四名ノ生命財產保護ニ留意方依頼シ居
タリ 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

轉電先公使北平

奉天 昭和六年九月十九日後發
同 六年九月二十日前着

電信第六五三號（暗）

往電第六三四號及往電第六四一號ニ關シ

十九日英、佛、露領事埃國人名譽領事夫々館員を來訪シタルニ依
リ館員ヨリ本件發端等然ルヘク説明シ置キタリ其際英國總領事ハ
米國領事館員ヨリ聽キタル處ヲ基礎トシテ作成セル本國政府宛電
信案ヲ讀上ケタルカ其内柳條溝鐵道破壞後我出先機關ヨリ東京ニ
報告シ其回訓ヲ待ツテ軍ノ行動開始セラレタリトスル部分アリタ
ルニ付訂正シ置キタリ佛國領事ハ單ニ當方ノ説明ヲ聽取スルノ
ミナリシモ露國領事ハ支那官兵ノ爆破行爲ト言フモ元來支那ニ官
兵ナルモノアリヤト皮肉ノ言辭ヲ弄シ又埃太利名譽領事ハ兵工廠

外務省

附近ニ居住スル埃國人技師四名ノ生命財産保護ニ留意方依頼シ居
タリ

轉電先原外務大臣
第六五四號

北平

我軍ハ城内占領後衛戍地司令官ノ名義ヲ用ヒ一日日本軍ハ城内ヲ占

領シ臨時治安維持ニ任スヘキ旨布告ヲ發シ事實上戒嚴命ヲ敷キ

居レリ

轉電先對北平公使、南京、在滿各領事

ハ

シ

ク

ル

ト

ス

ル

外務省

昭和6年九月二十九日後發

幣原外務大臣 奉天 九月二十日前着

第六五四號 奉天 昭和六年九月二十日後着

我軍第六城內占領後衛戍地司令官ノ名義ヲ用ヒ「日本軍ハ城內ヲ占

領シ臨時治安維持ニ任ス各領事同行布告ヲ發シ津贖上被嚴諭在留

居代表シ其生命財產ヲ保護ニ付盡力方ヲ依頼シ旁日本軍權ノ在留

外國人ニ對スル保護權ニ付問合セテ各領事ニ付本官ハ我方ニ於テ

ハ現ニ憲兵百二十名及守備兵三百名ヲ以テ城內及商埠地ノ警備ニ

當ラシメ居ルト共ニ城內ニハ多數ノ軍隊駐屯シ居ルニ付此點ニ關

シテハ何等懸念ノ要ナク且本問題ニ關シテハ既ニ司令官トノ間ニ

相談済ニシテ司令官モ之ニ對シテハ極力盡力致ス心組ナル旨言明

シ居リタリト答ヘ置キタリ

尙最後ニ英國總領事ハ目下皮門外居住宣教師等ヨリ支那側有志中

第當地ノ號安維持ニ對シ不安ヲ抱キ請願ノ爲英國總領事ヲ通シ日本官憲在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛テ本官ハ斯ル場合ニハ直接當館又ハ當該軍隊ニ申出ツ奉天傳昭和六年九月十九日午後發リ支、北平、南京、在滿各領事ヘ轉電セ同 六年九月二十日後着
電信第六五五號（暗）

十九日午後五時過英米各領事同行本官ヲ來訪シ共ニ各自國在留民ヲ代表シ其生命財產ノ保護ニ付盡力方ヲ依頼シ旁日本軍權ノ在留外國人ニ對スル保護權ニ付問合セアリタルニ付本官ハ我方ニ於テハ現ニ憲兵百二十名及守備兵三百名ヲ以テ城内及商埠地ノ警備ニ當ラシメ居ルト共ニ城内ニハ多數ノ軍隊駐屯シ居ルニ付此點ニ關シテハ何等懸念ノ要ナク且本問題ニ關シテハ既ニ司令官トノ間ニ相談濟ニシテ司令官モ之ニ對シテハ極力盡力致ス心組ナル旨言明シ居リタリト答ヘ置キタリ
尙最後ニ英國總領事ハ目下東門外居住宣教師等ヨリ支那側有志中

ニ當地ノ治安維持ニ對シ不安ヲ抱キ請願ノ爲英國總領事ヲ通シ日
本官憲へ取計方申出アリタル旨語レルヲ以テ本官ハ斯ル場合ニハ
直接當館又ハ當該軍隊ニ申出ツル様傳ヘラレタシト述レ置キ多リ
支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セリ 六年九月二十日 前着
電信第六五六號（略）
往電第六二七號ニ關シ
其後情勢漸次鎮靜ノ模様ナリシニ鑑ミ邊門及城内各所ニ集合避難
中ノ居留民ニ對シ隨意附屬地ニ引揚ケテ然ルヘキ旨示達シタルカ
夕刻迄ニ男子約三十名殘留シテ自宅ノ監視ニ當リ居ル外婦女子約
八十名ハ附屬地内各自知人宅又ハ滿鐵地方事務所ニ於テ手配シタ
ル滿鐵俱樂部其他へ避難濟ミナリ
支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セリ

第

號

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛

奉天大昭和六年九月十九日後發

同 六年九月二十日前着

電信第六五六號（暗）

往電第六二七號ニ關シ

其後情勢漸次鎮靜ノ模様ナリシニ鑑ミ邊門及城内各所ニ集合避難
 中ノ居留民ニ對シ隨意附屬地ニ引揚ケテ然ルヘキ旨示達シタルカ
 夕刻迄ニ男子約三十名殘留シテ自宅ノ監視ニ當リ居ル外婦女子約
 八十名ハ附屬地内各自知人宅又ハ滿鐵地方事務所ニ於テ手配シタ
 ル滿鐵俱樂部其他へ避難濟ミナリ
 支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セリ

外務省

第 6 號 二八〇二 暗 奉天 十九日後發

在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛 日前着

幣原外務大臣

第六五八號 奉天 昭和六年九月十九日後發

電信第六五七號(暗) 奉天 同 昭和六年九月二十日前着

在兵力ニテ治安維持ニ充分ナルヲ得ズ支那側並ニ外國人側ニ

往電第六四八號ニ關シ 危惧ヲ抱キ居ルヲ以テ日支双方民間有力者

新民府應援差警軍隊ハ危險ノ場合ヲ考慮シ七名ヲ派遣シタル處

本日午後三時新民府へ無事到着シタルニ付同地ニ五名ヲ殘シタル

係者集合委員細協議ノ後 新民府在留邦人全部無事

支、北平、南京へ轉電セリ

支、北平、南京へ轉電セリ

外務省

昭和6 一二八〇二 暗 奉天 十九日後發

在奉天林總領事ヨリ本省外航月二十日前着

幣原外務大臣 奉天 昭和六年九月林總領事前發

第六五八號 同 昭和六年九月二十日前着

當地城內商埠地トモ支那側警察力全然消滅ノ状態ニ在ル處我方現
在滿兵加三ヲ八治安維持ニ充分妥當ニ得支那側並ニ外國人側ニ
於テモ此點ニ付多大ノ危惧ヲ抱キ居ルヲ以テ支方民間有力者
ニ依ル治安維持會ヲ組織セシメ我陸軍ヲ監督シ下ニ治安維持ニ當
ラシムル様打合セ申ニテ陸軍側ニテモ異存尤キニ付明廿日支關
係者集合委細協議 託等ノ事ニ手配中
支、北平、南京、在滿各領事へ轉電セ別島、安東、哈爾濱、濟南

へ轉電セリ
支ヨリ漢口ニハ...

外務省

昭和六年九月二十日
第一二八四五號

幣原 在奉天林總領事ヨリ幣原外務大臣宛領事

奉天 昭和六年九月二十日前發

同 六年九月二十日前着

第六六〇號
關東軍司令官ハ十九日左記報告ヲ爲シタリ

電信第六五九號（至急）（暗）
在滿各館通信狀態ハ吉林拘鹿農安通化新民府海龍鄭家屯ハ事件後
間モナク不通齊々哈爾滿洲里ハ當館無電ニ依リ哈爾賓經由又中南
支各館ハ大連經由通信繼續中ナリ（今後當館發在滿各領事トアル
ハ前記不通ノ各館ヲ除ク）尙大臣發鄭家屯宛合第五五六號ハ暗號
ノ儘滿鐵關係者ニ託送ノ事ニ手配中
支、北平、南京、漢口、天津、廣東、青島、安東、哈爾賓、濟南
ヘ轉電セリ
又ヨリ漢口ハ...

外務省

昭和の感其之八四五非平國奉天義無視之十日目前發日行爲ニ
 本省外九月二十日後着ノ赴ク處今ニシ
 幣原外務大臣スルニ非サレハ我在滿林總領事
 第六六〇號明ナリ
 關東軍司令官ハ十九日左記布告ヲ爲シタルモノハ支那一般民衆
 左記スシテ民生ヲ割除シテ願ミサル一部野心家ノ行爲ニ外ナラ
 昭和六年九月十八日午後十時三十分東北軍第一隊ハ奉天西北側北
 大營附近ニ於テ我南滿鐵道ヲ破壞シ餘歲ヲ驅ツテ日本軍守備隊ヲ
 襲撃シ彼ヨリ敵對行爲ヲ開始セリ抑々南滿洲鐵道ハ條約ニ基キ正
 當ニ獲得セル日本帝國ノ所有ニ屬シ帝國ハ之ニ對シ他國ヲシテ一
 指ヲモ染メズサレバニテ民國東北軍ニシテ敢テ之ヲ犯セルコ
 ミナラス更ニ帝國軍隊ニ對シ銃砲火ヲ開キシカ如キハ是東北軍自
 然求メテ明カニ我帝國ニ對シ挑戰シ來レルモノナリ之ヲ輓近續發
 スル我權益侵害行爲下到處ニ生起セル侮日行動ニ照スニ決シテ

外務省

一時的感情ノ誘因ニ非ス國際道義無視ノ慣用ト侮日行爲ニ慣レタ
 昭和國軍憲ノ計畫的ナルモ昭和國軍憲ノ計畫的ナルモ本省外何物モ本省外何物モ廿日前勢廿日前勢ヒノ赴ク處今ニシ
 テ之ヲ芟除殲滅スルニ非サレハ我在滿蒙利權ノ覆ヘサルヘキハ火
 ヲ賭ルヨリ明ナリヲ賭ルヨリ明ナリ
 然レトモ熟々思フニ斯ノ如キ暴舉ヲ敢テスルモノハ支那一般民衆
 御令ノ民生ヲ剝除シテ顧ミサル一部野心軍憲ノ行爲ニ外ナラ
 ス本職ハ南滿鐵道保護ノ重責ニ鑑ミ既得利權ノ擁護ト帝國軍ノ信
 威ヲ確保ノ爲斷乎タル處置ヲ執ルニ寸毫モ躊躇スルニ非ス帝國ノ
 膺懲セントスルハ東北軍憲ニシテ一般民生ノ休戚ニ關シテハ本職
 ノ夙ニ苦慮セル處之ヲ一般部下ニ徹底セシメ其福利ノ擁護ニ付最
 大ノ努力ヲ要求シ置ケル故ニ一般民生ハ毫モ憂フル處ナク業ニ安
 シ居ニ戚シ聊カモ危懼逃逸ノ舉ニ出テサランコトヲ望ム
 然レトモ苟モ我軍ノ行動ニ害ヲ加フルモノニ對シテハ軍ハ秋毫モ
 看過スルコトナク斷乎タル處置ニ出ツルコトヲ重ネテ聲明ス
 轉電先公使、北平、南京

外務省

昭和6 一二七八三 暗

奉天 廿日前發
本省 九月廿日前着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第六六一號（大至急）

貴電第二〇〇號ニ關シ

御訓令ノ内容ハ勿論閣下ニ於テ陸軍大臣ト御協議濟ニテ同大臣ヨ
リ關東軍司令官ニモ電訓アル事ト推察スル處本官軍司令官ト折衝
上ノ都合モアリ至急御回電アリタシ

外務省